

講義科目名称： 神道概論Ⅰ（神道と日本文化）

授業コード： 152001 153001

英文科目名称： Introduction to Shinto 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	神道は宗教として確立される以前の土着の習俗に発し、多様な文化と融合した。概念として論理性を明確に説くことは難しいとされる神道の特徴と来歴を理解し、神社・祭祀の個別の事例から神道および日本の特質を解明する。風土とともにある神道の生成と発展を、古代から現代に向かって通史的に学習する。とりわけ祭祀や伝統の基底にみられる神話・伝説に由来する、多様な信仰を学ぶことで、日本の独自性と国家制度の形成・変容を包括的に理解することを目的とする。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、③オンデマンド型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ①とB - ①である。
授業計画	1 回目 神道と現代社会（「民族」と「民俗」の宗教） 2 回目 神道古典を学ぶ①（『古事記』の国土生成神話） 3 回目 神道古典を学ぶ②（『古事記』と『日本書紀』） 4 回目 律令国家の祭祀と神道 5 回目 言霊の幸わう国（風土記・万葉集・祝詞） 6 回目 古代祭祀と遺跡・遺物（神道の源流） 7 回目 神仏習合の展開と二十二社（中世の神道①） 8 回目 神道の多様化と流派（中世の神道②） 9 回目 江戸幕府の神社政策（近世の神道①） 1 0 回目 国学の登場（近世の神道②） 1 1 回目 近代の神道と日本人 1 2 回目 神社神道と民俗学 1 3 回目 有職故実と神社 1 4 回目 神道の祭祀と作法 1 5 回目 現代とまつり
到達目標	日本の伝統文化の基層にある神道という民族的な信仰の概要を理解することで、通史的な基礎学力の向上をはかる。他宗教の影響や比較を通じて自国文化の特質を学び、教養を高め、文化的価値観を深く理解することができる。自国の歴史と神話への関心をもつことで、社会的かつ国際的な発信力の基礎を養い、主体的に発信する能力を身につける。
授業時間外の学習	受講するにあたって、予め教科書を一読し、読めない漢字・わからない意味を調べておくこと。授業後は復習を行い、重要事項の理解を深めること。授業時に疑問に思った事を自ら調べてまとめる。
評価方法	小テスト・レポート（50%） 最後の授業での小テスト（50%） 遠隔授業に変更した場合はレポート（50%）平常点（50%）
テキスト	國學院大學神道文化学部編『プレステップ神道学』〈第2版〉弘文堂 2023（令和5）年
参考書	神社本庁研修所編『わかりやすい神道の歴史』神社新報社 2006（平成18）年

講義科目名称： 日本語リテラシー

授業コード： 113001 115001

英文科目名称： Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
基礎学力	文章力		
添付ファイル			

授業の概要	学生が身につけるべき日本語の基礎を習得する講座。日本語の正しい運用は、大学の授業はもちろんのこととして、実社会のあらゆる場において求められている。授業では主に、①語彙力（敬語・文法・表記等）・②読解力（資料・文章）・③表現力（ビジネス文書・プレゼンテーション等）が身につくよう指導していく。基礎学力を養成するとともに、キャリア支援の一助ともなるよう授業を展開したい。 学習成果の指標はA-③である。 ※遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 日本語に親しむ① 3 回目 日本語に親しむ② 4 回目 日本語に親しむ③ 5 回目 日本語の基礎①—敬語— 6 回目 日本語の基礎②—文法— 7 回目 日本語の基礎③—語彙— 8 回目 日本語の基礎④—言葉の意味— 9 回目 日本語の基礎⑤—表記— 1 0 回目 日本語の基礎⑥—漢字— 1 1 回目 読解の基礎①—辞書— 1 2 回目 読解の基礎②—内容把握・要約— 1 3 回目 読解の基礎③—段落構成— 1 4 回目 読解の基礎④—実用的文章— 1 5 回目 まとめ		
到達目標	・実用的な日本語の基礎が理解できる。 ・実用的な資料・文章の読解や表現方法が理解できる。		
授業時間外の学習	毎時間予定された範囲について語句等を中心に確認し、随時復習を心掛ける。		
評価方法	学期末課題（50%） 平常点（50%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	・使用せず。随時プリントを配布する。		
参考書	・『日本語検定 公式練習問題集 3 級』（3 訂版）（東京書籍、2016） ・『「日本語」中級-3,4級対応』（日本語検定公式テキスト・例題集 増補改訂版）（東京書籍、2016） ・『最新最強の一般常識 26年版』（成美堂、2024）		
備考	文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格について積極的な受検を望みたい。		

講義科目名称： 日本語リテラシー

授業コード： 151002

英文科目名称： Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	学生が身につけるべき日本語の基礎を習得する講座。日本語の正しい運用は、大学の授業はもちろんのこととして、実社会のあらゆる場において求められている。授業では主に、①語彙力（敬語・文法・表記等）・②読解力（資料・文章）・③表現力（ビジネス文書・プレゼンテーション等）が身につくよう指導していく。基礎学力を養成するとともに、キャリア支援の一助ともなるよう授業を展開したい。なお、学習成果の指標はA-③である。 ※遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 日本語の基礎①—敬語について— 3 回目 日本語の基礎②—文法について— 4 回目 日本語の基礎③—語彙について— 5 回目 日本語の基礎④—言葉の意味について— 6 回目 日本語の基礎⑤—表記について— 7 回目 日本語の基礎⑥—漢字について— 8 回目 読解の基礎①—資料の解析について— 9 回目 読解の基礎②—文章の解析について— 1 0 回目 表現の基礎①—書式について— 1 1 回目 表現の基礎②—手紙文について— 1 2 回目 表現の基礎③—履歴書・エントリーシートについて— 1 3 回目 表現の基礎④—ビジネス文書について— 1 4 回目 表現の基礎⑤—意見文について— 1 5 回目 表現の基礎⑥—プレゼンテーションについて—		
到達目標	・実用的な日本語の基礎が理解できる。 ・実用的な資料・文章の読解や表現方法が理解できる。		
授業時間外の学習	毎時間予定された範囲について語句等を中心に確認し、テキストの予習・復習を欠かさず行う。		
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	・『日本語検定 公式練習問題集 3 級』（3 訂版）（東京書籍、2016）		
参考書	・『「日本語」中級-3,4級対応』（日本語検定公式テキスト・例題集 増補改訂版）（東京書籍、2016） ・『最新最強の一般常識 26 年版』（成美堂、2024）		
備考	文部科学省後援事業「日本語検定」等、各種検定・資格について積極的な受検を望みたい。		

講義科目名称： 日本語リテラシー

授業コード： 151001

英文科目名称： Japanese Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：アカデミック・ライティング			
添付ファイル			

授業の概要	本講義では日本語の学習の中でも文章表現に焦点を当てます。 読み書きは、学生生活の上では、レポートや卒論の作成などの基礎能力であり、文献収集と読解の能率を高めるためにも大切な能力となるでしょう。 文章なるものにはさまざまな表現方法や様式がありますが、中でも、より実用的なレポートや論文のかたちを理解し、その読解方法、作成方法を学んでもらいます。 なお、学習成果の指標は A-②です。 教室での対面授業が基本ですが、それ以外の受講の方法については応相談。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業の進め方を説明する。 2 回目 論文の分析（１） 論文を読み、構成を把握する。 3 回目 論文の分析（２） 論文を読み、構成を把握する。 4 回目 要約文の作成 論文を要約する。 5 回目 題材の選定 レポートの題材（文献に限る）を選ぶ。 6 回目 関連文献の収集 対象とする題材に関連する文献を調べる。 7 回目 ブレインストーミング 取り上げる題材について、どのようなテーマ設定が可能か、アイディアを出す。 8 回目 テーマの設定 題材のどのようなことを論じるのかを決める。 9 回目 論点の設定 論点を絞り込む。 10 回目 関連文献の整理 レポート作成に必要なデータおよび先行する見解を整理する。 11 回目 本論の構成（１） パラグラフを作成する。 12 回目 本論の構成（２） パラグラフを作成する。 13 回目 導入部の作成 本論に先行する導入部の草案を作る。 14 回目 まとめ及びレポート提出 これまでのまとめ。 また、レポートの提出。 15 回目 総評 レポートの返却と問題点の確認。		
到達目標	レポート作成の技術を身に付けることができる。		
授業時間外の学習	レポートの作成には、授業時間外の準備が必要。 事前学習（30分）：各回の作業の準備、また課題処理 事後学習（30分）：内容の見直し、課題の手直し		
評価方法	・課題レポート（50%） ・授業課題（50%）		
テキスト	随時プリントを配布。		
参考書			
備考			

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュ I

授業コード： 123001 141002 143002

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
乙黒 晃 講師			
添付ファイル			

授業の概要	文化や異文化コミュニケーションに関するテーマについて講読する。多様な文化・社会を分析・比較することによって、文化研究の学問的視座を養成する。学習成果の指標はA-①とB-③である。遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用する）を併用して実施する。		
授業計画	1 回目 UNIT 1 Essentialism 本質主義 授業についての導入 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 2 回目 UNIT 1 Essentialism Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 3 回目 UNIT 2 Non-essentialism 非本質主義 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 4 回目 UNIT 2 Nn-essentialism Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 5 回目 UNIT 3 Socialization 社会化 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 6 回目 UNIT 3 Socialization Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 7 回目 UNIT 4 Cultural Identity 文化的アイデンティティ Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 8 回目 UNIT 4 Cultural Identity Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 9 回目 UNIT 5 Cultural Hybridity 異文化融合 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 1 0 回目 UNIT 5 Cultural Hybridity Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 1 1 回目 UNIT 6 Stereotype 固定観念 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading 1 2 回目 UNIT 6 Stereotype Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 1 3 回目 UNIT 7 Representation 文化描写 Warm-up ～ Vocabulary Building ～ Reading 1 4 回目 UNIT 7 Representation Reading～Comprehension Questions 補助教材による演習 1 5 回目 まとめ 授業内容理解度を確認する。		
到達目標	各Unitにおける文化に関する記述内容について多様な視点・考え方を理解することができる。各Unitにおける演習によって、自己が所属する文化・環境と比較し、改めて自己のアイデンティティについて考えられるようになる。自身を取り巻く社会的課題に気がつき、それらについて批判的に考え、自己の意見を持つことができる。		
授業時間外の学習	受講する事前学習として、各Unitの英文章についてわからない英単語や英語表現について、最低限、英和辞書を使って調べておくこと。また、テキストにある設問等に対して、授業で解説される前にあらかじめ自分で考え解答しておく、また解答を予想しておくこと。		
評価方法	平常点（毎回の授業内容の確認評価、レポートを含む）70% まとめ確認テストによる理解度評価 30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	日本文学フィールド学生対象：Michael Ruddick, Simon Pryor, J. A. Kusaka『Exploring Landscapes of Culture & Communication - 英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論』（松柏社、2018年・発行、		

	2021年・第4刷) 補助教材（プリント教材） 日本史フィールド・子ども教育フィールド学生対象：熊澤孝昭、静 哲人、望月正道『AMBITIONS — Elementary』（金星堂、2018年・発行、2022年・第8刷） 補助教材（プリント教材）
参考書	英和辞書を必ず授業に持参すること。高校のとき使用した英文法の参考書等を利用してテキスト内容について理解を深めるのもよい。インターネット上の無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web、DMM英会話等）を利用することも推奨。
備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。また、英和辞書は必携。その他、自分が必要と思う参考書も、持ち込み可。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進捗と内容に多少の変更がなされる場合がある。 当該授業を受講する学生は、必ず、Google-Classroomに登録すること。このClassroomを通して、授業内容の予告や課題指示、授業に関連した資料等の配信をする。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュ I

授業コード： 123002 141001 144001

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	英語の基礎基本をしっかりと学び、日常生活レベルの英語を理解し、表現する訓練をする。 (1) 高校までに学んだ基本的な文法と英語構文を再確認し、基礎力を定着させる。 (2) 学んだ文法や構文を活かして、比較的短めの英語の文章を読む。 なお、学習成果の指標はA-①とB-③とである。 遠隔授業を実施する場合には、②同時双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション・名詞 各回の授業では文法項目ごとに様々な練習問題をこなすとともに、100語程度の短めの文章を読んでいく。 2 回目 名詞 3 回目 冠詞 4 回目 代名詞 1 5 回目 代名詞 2 6 回目 時制 7 回目 前半のまとめ 8 回目 進行形 9 回目 完了形 1 10 回目 完了形 2 11 回目 助動詞 1 12 回目 助動詞 2 13 回目 態 1 14 回目 態 2 15 回目 後半のまとめ		
到達目標	英語の基礎基本を身につけ、日常生活レベルの英語を理解し、自ら表現できるようにする。また基礎的な英語の読解力を身につける。		
授業時間外の学習	授業の予習と復習を必ずしてほしい。この二つを欠くと言語の上達と修得はなくなります。		
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況 20% 試験 80% 遠隔授業に移行した場合には上記の評価配分を変えることがある。		
テキスト	『Fundamental English Grammar with Short Readings（読解力につなげるコア英文法）』（朝日出版社） 『Answers to Everyday Questions 1 [Basic]（身近な不思議を英語で学ぶ〈基礎〉）』（南雲堂）		
参考書	英語の辞書は授業時に必ず用意してもらいたい。英和でも英英でもよい。		
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合がある。		

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュ I

授業コード： 143001 144002

英文科目名称： Freshman English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
戸叶行一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	英文法を中心に英語の基礎を学ぶ。各品詞（名詞・冠詞・代名詞・助動詞）、時制・態等、基礎的な文法を学習し、テキストの練習問題に答えることによって、要点を確認する。さらに、各項目に即した英文でトレーニングする。 なお、学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修「Google Classroom」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、 文型（1） 2 回目 文型（2） 3 回目 名詞 4 回目 冠詞 5 回目 代名詞（1） 6 回目 代名詞（2） 7 回目 前半のまとめ 8 回目 未来形 9 回目 進行形 1 0 回目 完了形 1 1 回目 助動詞（1） 1 2 回目 助動詞h（2） 1 3 回目 態（1） 1 4 回目 態（2） 1 5 回目 後半のまとめ
到達目標	基本的な英文法（名詞・冠詞・代名詞・助動詞、時制・態など）に対する理解を深め、英文を読む際に、語と語の関係や結びつきを把握し、文構造（主に文型）を正確に理解し、内容理解が正しくできるようになることを目標とする。 さらに、英語による基礎的な表現力を身につける。
授業時間外の学習	テキストの中の単語・熟語などの意味を調べておくことや設問に答えておくことなど、授業の準備が必要である。さらに、既習の英文の音読や音読筆写によって、復習とする。
評価方法	小テスト（70%）平常点（30%） 遠隔授業に変更した場合は、レポート（70%）平常点（30%）
テキスト	北山長貴・Margaret Yamanaka・福井慶一郎 『English Makeover リーディングのための英文法演習』 成美堂 2 0 1 8 年 JACET リスニング研究会 『Forerunner to Power-Up English 総合英語パワーアップ〈入門編〉リスニングからリーディング』 南雲堂 2 0 1 2 年
参考書	英語の辞書は必携。

備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。 テキストについては、上記テキスト欄の2種類（成美堂、南雲堂）のうちの1種類を使用する。クラスによって異なるため、注意すること。
----	--

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュ II

授業コード： 223001 242002 243002

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
乙黒 晃 講師			
添付ファイル			

授業の概要	文化や異文化コミュニケーションに関するテーマについて講読する。多様な文化・社会を分析・比較することによって、文化研究の学問的視座を養成する。学習成果の指標はA-①とB-③である。遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修と③オンデマンド学修（「Google Classroom」を利用する）を併用して実施する。		
授業計画	1 回目 UNIT 8 Time and Culture 時間と文化 授業内容についての導入 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 2 回目 UNIT 8 Time and Culture Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 3 回目 UNIT 9 Discourse 談話 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 4 回目 UNIT 9 Discourse Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 5 回目 UNIT 10 Collectivism and Individualism 共同体主義と個人主義 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 6 回目 UNIT 10 Collectivism and Individualism Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 7 回目 UNIT 11 Masculine and Feminine Culture 男性文化と女性文化 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 8 回目 UNIT 11 Masculine and Feminine Culture Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 9 回目 UNIT 12 High-context and Low-context Culture 高文脈文化と低文脈文化 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 1 0 回目 UNIT 12 High-context and Low-context Culture Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 1 1 回目 UNIT 13 Power-distance 権力格差 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 1 2 回目 UNIT 13 Power-distance Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 1 3 回目 UNIT14 Globalization and Cultural Identity グローバル化と文化の独自性 Warm-up～Vocabulary Building～Reading 補助教材による演習 1 4 回目 UNIT14 Globalization and Cultural Identity Reading～Comprehension questions 補助教材による演習 1 5 回目 まとめ 授業内容理解度を確認する		
到達目標	各Unitにおける文化に関する記述内容について多様な視点・考え方を理解することができる。各Unitにおける演習によって、自己が所属する文化・環境と比較し、改めて自己のアイデンティティについて考えられるようになる。自身を取り巻く社会的課題に気づき、それらについて批判的に考え、自己の意見を持つことができる。		
授業時間外の学習	受講する事前学習として、各Unitの英文章についてわからない英単語や英語表現について、最低限、英和辞書を使って調べておくこと。また、テキストにある設問等に対して、授業で解説される前にあらかじめ自分で考え解答しておく、また解答を予想しておくこと。		
評価方法	平常点（毎回の授業内容の理解度を評価、レポート提出等を含む）70% まとめ（授業内容理解度確認評価）30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		

テキスト	日本文学フィールド学生対象：Michael Ruddick, Simon Pryor, J.A. Kusaka 『Exploring Landscapes of Culture & communication — 英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション』（松柏社、2018年・発行、2021年・第4刷） 補助教材（プリント教材） 日本史フィールド・子ども教育フィールド学生対象：熊澤孝昭、静 哲人、望月正道『AMBITIONS — Elementary』（金星堂、2018年・発行、2022年・第8刷） 補助教材（プリント教材）
参考書	英和辞書を必ず授業に持参すること。高校のとき使用した英文法の参考書等を利用してテキスト内容について理解を深めるのもよい。インターネット上の無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web、DMM英会話等）を利用することも推奨。
備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。また、英和辞書を必携。その他、自分が必要と思う参考書も持ち込み可。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。 当該授業を受講する学生は、必ず、Google-Classroomに登録すること。このClassroomを通して、授業内容の予告や課外指示、授業に関連した資料等の配信をする。

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュⅡ

授業コード： 223002 242001 244001

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	英語の基礎基本をしっかりと学び、日常生活レベルの英語を理解し、表現する訓練をする。 （１）高校までに学んだ基本的な文法と英語構文を再確認し、運用練習を通して身につける。 （２）学んだ文法や構文を活かして、英文読解練習を行う。 なお、学習成果の指標はA－①とB－③とである。 遠隔授業が必要な場合には、②同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。		
授業計画	1 回目	不定詞 1	毎回の授業では、それぞれの文法項目ごとに様々な練習問題をこなすとともに、100語程度の文章を読んでいく。
	2 回目	不定詞 2	
	3 回目	分詞 1	
	4 回目	分詞 2	
	5 回目	動名詞 1	
	6 回目	動名詞 2	
	7 回目	前半のまとめと復習	
	8 回目	形容詞・副詞	
	9 回目	比較 1	
	1 0 回目	比較 2	
	1 1 回目	前置詞	
	1 2 回目	関係詞 1	
	1 3 回目	関係詞 2	
	1 4 回目	仮定法 1・2	
	1 5 回目	後半のまとめと復習	
到達目標	英語の基礎基本を身につけ、日常生活レベルの英語を理解し、自ら表現できるようにする。また基礎的な英語の読解力を身につける。		
授業時間外の学習	教科書の予習と復習を必ずしてほしい。それを欠くと語学の上達と修得はありません。		
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況 20% 確認テスト 80% 遠隔授業に移行した場合には、上記の評価配分を変えることがある。		
テキスト	『Fundamental English Grammar with Short Readings（読解力につなげるコア英文法）』（朝日出版社） 『Answers to Everyday Questions 1 [Basic] 〈身近な不思議を英語で学ぶ〈基礎〉』（南雲堂）		
参考書	辞書は授業時に必ず用意してもらいたい。英和でも英英でもよい。		
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合がある。		

講義科目名称： フレッシュマン イングリッシュ II

授業コード： 243001 244002

英文科目名称： Freshman English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
戸叶行一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	英文法を中心に英語の基礎を学ぶ。準動詞（不定詞・分詞・動名詞）の作る名詞句、形容詞句、副詞句、さらに関係詞の作る名詞節、形容詞節の働きを学習し、テキストの練習問題に答えることによって、要点を確認する。また、各項目に即した英文でトレーニングする。 なお、学習成果の指標はA-①とB-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修「Google Classroom」を利用)で実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、不定詞（1） 2 回目 不定詞（2） 3 回目 分詞（1） 4 回目 分詞（2） 5 回目 動名詞（1） 6 回目 動名詞（2） 7 回目 前半のまとめ 8 回目 比較（1） 9 回目 比較（2） 1 0 回目 前置詞 1 1 回目 関係詞（1） 1 2 回目 関係詞（2） 1 3 回目 仮定法（1） 1 4 回目 仮定法（2） 1 5 回目 後半のまとめ
到達目標	句と節（名詞・形容詞・副詞）に対する理解を深め、英文を読む際に、句と節の働きを把握し、文構造を正確に理解し、内容理解が正しくできるようになることを目標とする。 さらに、英語による基礎的な表現力を身につける。
授業時間外の学習	テキストの中の単語・熟語などの意味を調べておくことや設問に答えておくことなど、授業の準備が必要である。さらに、既習の英文の音読や音読筆写によって、復習とする。
評価方法	小テスト（70%）平常点（30%） 遠隔授業に変更した場合は、レポート（70%）平常点（30%）
テキスト	北山長貴・Margaret Yamanaka・福井慶一郎 『English Makeover リーディングのための英文法演習』 成美堂 2 0 1 8 年 JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power-Up English 総合英語パワーアップ〈入門編〉リスニングからリーディング』 南雲堂 2 0 1 2 年
参考書	英語の辞書は必携。

備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。
----	--

講義科目名称： スポーツ・健康科学A I（理論・実技）

授業コード： 124001 132001 142001

英文科目名称： Sports and Wellness Science A 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
長谷部せり 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	新入生の体力のうち、全身持久力と体幹の筋力は特に低下が著しいといわれている。これは、日頃運動しない生活習慣のあらわれであるともいえるだろう。自分自身の健康を考え、継続して行える運動について考えていきたい。 対面講義では、理論を学ぶだけでなく、主に実技を通して学んでいくこととする。実技のなかみとしては主に、縄跳びやストレッチ、体幹筋力トレーニング（コアトレ）を基礎体力向上種目としていく。また、バレーボール、バドミントン、卓球等の種目を選択して行う。この授業では、仲間と共に体を動かすことや協力してアクティブラーニングすることも大切なことであると考えている。（学習成果の指標はA-③、B-①。遠隔授業を実施する場合は、主に①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行い、必要に応じて③オンデマンド型学修を実施する。）		
授業計画	1 回目	オリエンテーション・講義 1 授業予定、成績評価、対面授業と遠隔授業について、自分の授業内の目標を決める 遠隔授業の際は①課題型学修を主として、必要に応じて③オンデマンド型学修を実施する	
	2 回目	健康と運動について考える・講義 2 「健康」とは 運動する意義を考える	
	3 回目	実技 1 自分の体力の現状を知る ストレッチ、コアトレ、縄跳びを中心に 種目別課題チャレンジ	
	4 回目	実技 2 自分の体力の現状を知る ストレッチ、コアトレ、縄跳びを中心に 種目別課題チャレンジ	
	5 回目	実技 3 部位を意識した基本的なトレーニング（負荷や回数を考えながら） 種目別課題チャレンジ	
	6 回目	実技 4 部位を意識した基本的なトレーニング（負荷や回数を考えながら） 種目別課題チャレンジ	
	7 回目	これまでの授業を振り返って・講義 3 【対面・遠隔授業共通】 大学の専門教育課程における体育科目の意味（運動をする理由）、 トレーニングの理論（合理性、科学性）	
	8 回目	実技 5 ○身体感覚運動の動きを各自でチェックして回数を考えながら「体幹前面」のトレーニング ○種目別課題のチャレンジ	
	9 回目	実技 6 卓球（この回以降）にチャレンジ（毎回の縄跳び・コアトレの課題は継続して取り組む） ○縄跳びチャレンジの効果確認（最低 2 分間跳びができるか）、「腰・下肢」のコアトレ ○種目の課題トライアル（より上のレベルを目指して）	
	1 0 回目	実技 7 ○飽きない工夫を考えてチャレンジ（状況に応じて負荷を上げる） ○種目別課題トライアル	
	1 1 回目	実技 8 ○正しい動きの確認をしながら回数を増やして「胸・腹部」の体幹前面のトレーニング ○種目別課題トライアル	
	1 2 回目	実技 9 ○種目のバリエーションを考えて「胸・腰・下肢」を鍛える ○種目別課題トライアル	
	1 3 回目	実技 1 0 ○縄跳びチャレンジ（2 分間・3 分間）、コアトレの効果を意識しながら体を動かす ○種目別課題トライアル	
	1 4 回目	健康な心と体・講義 4 【対面・遠隔授業共通】 食事と心の働きに関連、ダイエットの注意点、肥満度について等改めて健康について考える	
	1 5 回目	リフレクション・講義 5 【対面・遠隔授業共通】 授業のまとめ、ふりかえり（自分の目標と照らし合わせて）、課題の提出、質疑応答等	
到達目標	自分で目標を決めて、目標達成に向けて自分でできることを積極的に行う。例えば、基本のストレッチ、コアトレを覚え、入学時より反復回数・セット数を増やすこと（知識・技能、学びに向かう力）。縄跳びを 3 分		

	間、できるだけ続け跳ぶこと（技能、学びに向かう力）等。また、仲間と共に協力してアクティブラーニングすること。 遠隔授業の際は、自主トレ（遠隔用課題）による基礎体力の向上を主とする。 【本講座におけるディプロマ・ポリシー（全学）との関連】 「1. 培った教養を社会生活において生かすことができる」「3. 情報を適切に受け止め、行動に結びつけることができる」
授業時間外の学習	自分でいつでも実施可能なストレッチ，コアトレ，縄跳び等は、学習課題を達成するために授業外の積極的な練習が必要である。
評価方法	授業への参加意欲・態度（70％）、レポート（30％）等で総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合は授業への参加意欲・態度（50％）、レポート（50％）
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。
参考書	石山育朗『アドラー心理学で続けるひとりでできるエクササイズ』（アルテ、2019年） 他、必要に応じて授業内で紹介する。
備考	本授業では、講義と実技を組み合わせで行う。 実技の授業時は、運動着・運動靴（中履き）を着用する。 適切な服装が守られていないと判断された場合は、その時間の受講を許可しない。 諸般の事情により、授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： スポーツ・健康科学AⅡ（理論・実技）

授業コード： 214001 232001 244003

英文科目名称： Sports and Wellness Science A 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
長谷部せり 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	「AⅠ」を基礎として身体と運動に関する理解をさらに深める。とくにロコモティブ症候群（ロコモ）の予防には何をどのように実施すればよいかを引き続き学ぶ。 実技は、ウォームアップとしてストレッチやコアトレ、縄跳びを引き続き行う。AⅡでも引き続き選択制で種目別課題にチャレンジする。その他ダンベル体操、バランスボール、エアロバイク等も適宜実施する。この授業では、仲間と共に体を動かすことや協力してアクティブラーニングすることも大切なことであると考えている。（学習成果の指標はA-③、B-①。遠隔授業を実施する場合は、主に①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行い、必要に応じて③オンデマンド型学修を実施する。）		
授業計画	1 回目	オリエンテーション・講義1 授業予定、成績評価、対面授業と遠隔授業について AⅠの講義を振り返り、本授業での自分の目標を決める（具体的なプログラムを考える） 遠隔授業の際は、課題型学修とする。必要に応じてオンデマンド型学修にする。	
	2 回目	健康な生活を送るために・講義2 健康と運動を関連付けて、自分なりに健康な生活をおくるためにはどうしたらよいかを考える。 授業外学習としても実践可能なことを具体的に考える。	
	3 回目	実技1 夏休み後の自分の現状を知る ストレッチ、コアトレ、縄跳びを中心に 種目別課題にチャレンジ	
	4 回目	実技2 夏休み後の自分の現状を知る ストレッチ、コアトレ、縄跳びを中心に 種目別課題にチャレンジ	
	5 回目	実技3 ウォームアップ（ストレッチ、コアトレ、縄跳び） 種目を選択し、基本的な動きを確認する	
	6 回目	実技4 ウォームアップ（ストレッチ、コアトレ、縄跳び） 種目を選択し、基本的な動きを生かして自分の目標を設定し練習をする	
	7 回目	これまでの授業を振り返って・講義3 【対面・遠隔授業共通】 運動をすることが今後の自分の生活にどのように関わるかを考える	
	8 回目	実技5 部位を意識したトレーニング（負荷や回数を自分で考えて取り組む） 種目別チャレンジ…運動量の確保	
	9 回目	実技6 部位を意識したトレーニング（負荷や回数を自分で考えて取り組む） 種目別チャレンジ…運動量の確保（ラリーの回数等を意識して） ○ダンベルトレーニング、バランスボール（1分）、フラフープ（1分）で体幹を鍛える	
	10 回目	実技7 部位を意識したトレーニング（負荷や回数を自分で考えて取り組む） 種目別チャレンジ…運動量の確保（ラリーの回数等を意識して） ○ダンベルトレーニング、バランスボール（2分）、フラフープ（2分）で体幹を鍛える	
	11 回目	実技8 種目別チャレンジ…ゲームを楽しみながら（自分の目標達成に向けて） ダンベルトレーニング、バランスボール（3分）、フラフープ（3分）で体幹を鍛える	
	12 回目	実技9 種目別チャレンジ…ゲームを楽しみながら（自分の目標達成に向けて） ○ダンベルトレーニング、バランスボール、フラフープ等で自分で目標を決め体幹を鍛える	
	13 回目	実技10 種目別チャレンジ…ゲームを楽しみながら（自分の目標達成に向けて） ○ダンベルトレーニング、バランスボール、フラフープ等で自分で目標を決めて体幹を鍛える	
	14 回目	心の健康を考える・講義4 【対面・オンライン共通】 運動実施時の自分の心の整え方、他者の認知と付き合い方（心の健康）	
	15 回目	リフレクション・講義5 【対面・遠隔授業共通】 授業のまとめ、課題の提出 運動（スポーツ）の実践からの学びについて考える	
到達目標	自分で目標を決めて、目標達成に向けて自分でできることを積極的に行う。①ストレッチやコアトレの基本を覚え、目標を決めて実践すること（知識、思考力、学びに向かう力）、縄跳びを連続2分間以上続ける等、		

	具体的な数値目標を決めてそれを達成するために努力すること（技能、学びに向かう力），「実技の学習課題シート」の課題をできるだけ多く達成すること（技能、思考力・表現力、学びに向かう力），自分の大まかなトレーニングプランを作ること（知識、思考力、学びに向かう力）等から2つ以上達成すること 遠隔授業の際は，自主トレ（遠隔用課題）による基礎体力の向上を主とする。 【本講座におけるディプロマ・ポリシー（全学）との関連】 「1. 培った教養を社会生活において生かすことができる」「3. 情報を適切に受け止め、行動に結びつけることができる」
授業時間外の学習	自分でいつでも実施可能なストレッチ，コアトレ，縄跳び等は、学習課題を達成するために授業外の積極的な練習が必要である。
評価方法	授業への参加意欲・態度（70％）、レポート（30％）等で総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合は授業への参加意欲・態度（50％）、レポート（50％）
テキスト	授業内で必要に応じて資料等を配布する。
参考書	石山育朗『アドラー心理学で続けるひとりでできるエクササイズ』（アルテ、2019年） 他，授業内で必要に応じて紹介する。
備考	本授業では，講義と実技を組み合わせで行う。 実技の授業時は、運動着・運動靴（中履き）を着用する。 適切な服装が守られていないと判断された場合は、その時間の受講を許可しない。 諸般の事情により、授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 文学（文学とメディア）

授業コード： 243003

英文科目名称： Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	・文章作品と映像作品の比較から、作品受容の違いを理解する。 ・文学作品が原作となって映像化されたものは決して少なくないが、それらは、必ずしも原作に忠実であるとは限らない。そうすると、原作と映像化された作品はまったく別のものなのだろうか。メディアによる表現方法の違いを通して考えてみたい。 なお、学習成果の指標はA-①である。 ※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）でおこなう。 ※この授業では、映像作品の表現方法を確認したうえで、文章作品との表現の違いを理解していく。そのためこの授業では映像作品の視聴が必須となるが、対面授業時に視聴している映像をオンラインで流すことはできないので、もし遠隔授業となった場合、「時をかける少女」、世界の中心で、愛をさけぶ」、「スタンド・バイ・ミー」の映像作品を、各自何らかの方法（レンタル、購入など）で入手して課題に取り組む必要が発生することを了解した上で受講願う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 「時をかける少女」 (1) (映像作品前半部分の視聴) 3 回目 「時をかける少女」 (2) (映像作品前半部分の解説) 4 回目 「時をかける少女」 (3) (映像作品後半部分の視聴) 5 回目 「時をかける少女」 (4) (映像作品後半部分の解説／文章作品との比較解説) 6 回目 「時をかける少女」 (5) ー小テストー 7 回目 「世界の中心で、愛をさけぶ」 (1) (映像作品前半部分の視聴) 8 回目 「世界の中心で、愛をさけぶ」 (2) (映像作品前半部分の解説) 9 回目 「世界の中心で、愛をさけぶ」 (3) (映像作品後半部分の視聴) 1 0 回目 「世界の中心で、愛をさけぶ」 (4) (映像作品後半部分の解説／文章作品との比較解説) 1 1 回目 「世界の中心で、愛をさけぶ」 (5) ー小テストー 1 2 回目 「スタンド・バイ・ミー」 (1) (映像作品の視聴・タイムテーブルの作成) 1 3 回目 「スタンド・バイ・ミー」 (2) (映像作品の視聴・象徴的なシーンの把握) 1 4 回目 「スタンド・バイ・ミー」 (3) (文章作品と映像作品の比較解説) 1 5 回目 「スタンド・バイ・ミー」 (4) ー小テストー
到達目標	メディアによる表現方法の違いを理解し、作品を自分なりに解釈できるようになる。
授業時間外の学習	映像作品については授業時以外での視聴を強いることは無いが、可能であるなら、何らかの方法（レンタル、購入など）で2、3度視聴して欲しいと思う。文章作品（原作）は授業のパート時以前に必ず一読しておくこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） 各作品の小テスト（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	・『時をかける少女』（角川文庫）筒井康隆 角川書店 ・『世界の中心で、愛をさけぶ』（小学館文庫）片山恭一 小学館 ・『スタンド・バイ・ミー ー恐怖の四季秋冬編』（新潮文庫）スティーヴン・キング 新潮社

参考書	ナシ
備考	〔視聴する映像作品〕 ・「時をかける少女」（監督：細田守、脚本：奥寺佐渡子、2006年作品、角川ヘラルド映画） ※遠隔授業での課題で映像作品の視聴が必須なのは（1）（3）での2回分です。 ・「世界の中心で、愛をさけぶ」（監督・脚本：行定勲、2004年作品、東宝映画） ※遠隔授業での課題で映像作品の視聴が必須なのは（1）（3）での2回分です。 ・「スタンド・バイ・ミー」（監督：ロブ・ライナー、脚本：レイノルド・ギデオン他、1986年作品、コロムビア映画） ※対面授業では吹き替え版を使用します。 ※遠隔授業での課題で映像作品の視聴が必須なのは（1）（3）での2回分です。

講義科目名称： 現代社会と倫理

授業コード： 114001

英文科目名称： Ethics and Modern Society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
小林宣彦 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本は長い歴史の中で、独自の倫理観を築いてきた。倫理とは曖昧なものであるが故に、時代とともに変質してきたが、現代では倫理そのものが否定されることがある。しかしながら、国際化が進む現代社会においては、様々な倫理的価値観が衝突しており、その際に重要なのは、自己の倫理観を明確にしておくことである。 本講義では、現代社会において、倫理がどのような役割を果たしているのかを学び、自己の倫理的価値観を理解することを目的とする。 講義は、以下の三点をテーマにすすめる。 一点目は、「人間はなぜ倫理を必要とするのか」について考えていく。 二点目は、「資本主義社会はなぜ倫理を必要とするのか」について考えていく。 三点目は、日本の現代社会の倫理的問題点を、具体例を挙げながら考えていく。 授業は「対面型」でおこなうが、全面遠隔授業となった場合は「同時・双方向型学修」でおこなう。「同時・双方向型学修」の方法については、授業時または「Google Classroom」で指示する。 なお、学習成果の指標は A-①とB-①である。
授業計画	1 回目 インTRODクシヨン（授業の進め方などの説明） 2 回目 正義とは何か 3 回目 人間と倫理 1（自然界の特徴） 4 回目 人間と倫理 2（自然界のコントロール） 5 回目 人間と倫理 3（人間社会の特徴） 6 回目 人間と倫理 4（人間社会のコントロール） 7 回目 資本主義社会と倫理 1（資本主義の定義） 8 回目 資本主義社会と倫理 2（資本主義の特徴） 9 回目 資本主義社会と倫理 3（民主主義とは何か） 1 0 回目 資本主義社会と倫理 4（民主主義の原理） 1 1 回目 資本主義社会と倫理 5（資本主義社会の倫理） 1 2 回目 資本主義社会と倫理 6（日本的資本主義社会の倫理） 1 3 回目 現代社会の倫理的問題点 1（教育と倫理） 1 4 回目 現代社会の倫理的問題点 2（医学の進歩から生じる倫理的問題点） 1 5 回目 総括（授業のまとめ）
到達目標	一、資本主義と民主主義の特徴と問題点を指摘することができる。 一、近代資本主義における倫理の機能を説明することができる。 一、現代社会における倫理的問題を指摘し、それについて考えることができる。
授業時間外の学習	授業では専門的用語が出てくるので、それについて辞典類を引いて調べる。
評価方法	平常点（授業時に2～3回のテスト）：100%
テキスト	なし
参考書	授業時に紹介していく。
備考	

講義科目名称： 世界の宗教

授業コード： 242003

英文科目名称： World Religion

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	世界の文化の多様性を知り、国際的視野を広げることを目指し、世界と日本の宗教を比較しながら学ぶ講座。日常の暮らしに隣接する様々な宗教の領域を包括的に知ること、現代社会の情勢を理解する上で必須となる基礎知識を身につける。そのために、世界各地の諸民族における起源（神話）と儀礼の比較をするほか、教義・巡礼・修行・祈祷などの信仰的領域の諸要素を学習する。宗教的世界の内側を講義することで、宗教の機能や意味を問いかけ、人間生活における普遍的な信仰の意義を考える。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、③オンデマンド型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ①とB - ①である。
授業計画	1 回目 宗教の成立と宗教学 2 回目 世界三大宗教と民族 3 回目 諸宗教の祈祷・儀礼 4 回目 暦と年中行事 5 回目 祖先祭祀と祝祭 6 回目 祭の構造と特質 7 回目 修行と教義 8 回目 創世神話にみる世界の起源 9 回目 日本神話と宗教的他界観 1 0 回目 比較神話学 1 1 回目 呪術とシャマニズム 1 2 回目 聖地巡礼 1 3 回目 現代日本人の宗教観 1 4 回目 宗教学と諸領域 1 5 回目 宗教の比較研究
到達目標	神道と仏教を中心として、日本の宗教を足掛かりとして世界の宗教の諸相を理解し、相違点を説明できる能力を身につける。民族による習慣・伝統の相違を包括的に学ぶことで、多様性を理解し、教養を広げ、豊かな人格形成の基盤をつちかう。信仰の成立や構成要素を学ぶことで、歴史的経緯を背景とした諸宗教の奥行を理解する。宗教学的な研究手法を通じて、普遍的な意義を学び、問題点を的確に把握して説明できる能力を習得する。
授業時間外の学習	本講座を受講するにあって予習は不可欠である。予めテキストを一読し、新しい概念・キーワードを調べておくこと。また、講義後には復習をして知識の定着をはかること。
評価方法	小テスト・レポート (50%) 最後の授業での小テスト (50%) 遠隔授業に変更した場合はレポート (50%) 平常点 (50%)
テキスト	石井研士『プレステップ 宗教学』弘文堂 2021 (令和3) 年
参考書	ニニアン・スマート『世界の諸宗教 I』 教文館 1999 (平成11) 年

備考	
----	--

講義科目名称： 歴史発見

授業コード： 155001

英文科目名称： Discovery of Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	近代の日本では、メディアが政治・経済・社会などに多様な影響を与えました。この授業では前半で明治期の新聞の歴史について講義し、後半では近現代の新聞の探し方・調べ方を説明した上で、関心のある記事を選び、背景を調べ、レジュメにまとめてもらいます。新聞という身近なメディアを通して近代史に接することで、意外な一面を発見し、教養と多様な価値観を身につけることを目指します。なお、学習成果の指標はA-①です。 授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。		
授業計画	1 回目 ガイダンス ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 2 回目 近代メディアの誕生 3 回目 瓦版から政論新聞へ 4 回目 レジュメの作り方①—新聞記事の探し方— ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 5 回目 言論と暴力の合流 6 回目 言論の自由と言論規制（1） 7 回目 言論の自由と言論規制（2） 8 回目 言論と暴力の分離 9 回目 レジュメの作り方②—新聞記事の読み方と調べ方— 10 回目 言論と政治 11 回目 政治の季節～「中新聞」の成立 12 回目 レジュメの作り方③—まとめ方の具体例— 13 回目 レジュメの提出とコメントの記入 14 回目 レジュメへの批評① 15 回目 レジュメへの批評②		
到達目標	近代日本とメディアに関する基礎的な知識を身につけ、関心を持つことが出来る。 近代日本とメディアについて調べ、自分の言葉で他人に分かりやすく説明することが出来る。		
授業時間外の学習	レジュメの準備は授業時間外に行ってもらいます。授業でも新聞の探し方・調べ方やレジュメの作り方は説明しますが、不明点・不安点があれば教員に積極的に質問しましょう。		
評価方法	平常点（コメントペーパーなど）50%、レジュメ50% 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。		
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。		
参考書	適宜紹介します。		
備考	受講生の人数や学修状況等に応じて上記の授業内容を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。 実務教員：宮内庁書陵部期間業務職員として実録編纂及び刊行に関する業務に6年間従事。		

講義科目名称： 歴史発見

授業コード： 255001

英文科目名称： Discovery of Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	近代の日本は、短期間の間にさまざまなことが変化しました。この講義では、梨本宮妃伊都子という皇族妃の生涯を軸に、明治維新から敗戦までの約百年を概観します。高等学校で日本史を選択していない学生のために、映像や画像、当時の写真や新聞なども使用しながら進めていきます。近代日本の意外な一面を発見し、関心を持つことで、教養と柔軟な価値観を身につけることを目指します。なお、学習成果の指標はB-①です。 授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー日本の近代と梨本宮妃伊都子についてー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 2 回目 映像作品鑑賞 前半 3 回目 明治中期 誕生～少女時代（上流階級の日常） 4 回目 明治中期 明治のお嬢さまの日常 5 回目 明治後期 結婚・出産 6 回目 明治後期 日露戦争下の皇族妃、欧州旅行 7 回目 明治後期 明治天皇崩御、世相の変化 8 回目 大正期 第一次世界大戦、李王家との縁組 9 回目 映像作品鑑賞 後半 ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 1 0 回目 大正期 関東大震災、皇族妃の日常 1 1 回目 昭和初期 昭和天皇即位、軍隊の慰問 1 2 回目 昭和初期 2・26事件、日米開戦 1 3 回目 昭和戦中期 東京大空襲、敗戦、臣籍降下 1 4 回目 昭和戦後期 元皇族妃の戦後 1 5 回目 まとめ		
到達目標	近代の日本に関する基礎的な知識を身につけ、関心を持つことが出来る。 近代の日本について自分の言葉で他人にわかりやすく説明することが出来る。		
授業時間外の学習	高校時代に日本史を選択していない学生は、事前に教科書レベルの概説を予習しておくともスムーズです。疑問点や不明点があれば積極的に質問しましょう。 より深く知りたい学生は、各回で紹介する参考文献を読んでください。		
評価方法	平常点（各回のコメントペーパー、小テストなど）（100%） 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。		
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。		
参考書	適宜紹介します。		
備考	受講生の人数や学修状況等に応じて授業内容を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。 実務教員：宮内庁書陵部期間業務職員として実録編纂及び刊行に関する業務に6年間従事。		

講義科目名称： 音楽（理論と表現）

授業コード： 154001

英文科目名称： Music (Theory and Expression)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
阿久津清美 講師			
添付ファイル			

授業の概要	(1) 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭をめざす学生として必要な音楽理論の基礎を学び、様々な音楽活動に活かしていく力を身につける。 (2) 音楽のしくみや楽典の基礎を理解し確認するために、保育や教育現場でもよく活用されている鍵盤ハーモニカを使用しながら授業を進めていく。さらに即興やグループでの音楽づくりの活動も取り入れる。 (3) 習得した知識や音楽的な力を実習や保育、教育現場における様々な表現活動に活かせるようにする。 なお、学習成果の指標はBー②である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修（「Google classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（Google classroom」と利用）とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	音楽の基礎知識の確認とガイダンス リトミック(基礎リズム、即時反応)	
	2 回目	楽譜のルール（譜表、音名、音符、休符、変化記号、拍と拍子など）、鍵盤ハーモニカの確認 リトミック(アクセント、2拍子、3拍子、4拍子)	
	3 回目	拍子と小節、鍵盤ハーモニカの基礎と指導法、発声方法 リトミック(3拍子、8分の6拍子)	
	4 回目	ゲストティーチャーによるドラムサークルの実践	
	5 回目	音程 1 （完全音程系と長短音程系） 、鍵盤ハーモニカで音あそび リトミック(複リズム、リズムカノン、輪唱)	
	6 回目	音程 2 （臨時記号、増音程、減音程） 、鍵盤ハーモニカで音あそび リトミック(アウフタクト、クルーシス、アナクルーシス)	
	7 回目	音階と調 （長音階、短音階、長調、短調、移調、転調） リトミック(ハンドサイン、休符、補足リズム)	
	8 回目	和音 1 （和音の種類） リトミック(フレーズ)	
	9 回目	和音 2 （コードネーム） リトミック(基礎リズムを応用した活動)	
	1 0 回目	いろいろな音楽用語、コードネームの応用 リトミック(ダイナミクス)	
	1 1 回目	楽曲の形式 音楽づくり （反復、呼びかけとこたえ） リトミック(リズムパターン、複リズム)	
	1 2 回目	鍵盤ハーモニカによる音楽づくり 1 （民族音楽、色々な旋法による即興演奏） リトミック(リズムパターン、ボディーパーカッション)	
	1 3 回目	鍵盤ハーモニカによる音楽づくり 2 （グループ練習） リトミック(縮小、拡大)	
	1 4 回目	鍵盤ハーモニカによる音楽づくり 3 （グループ発表） リトミック(スキップ、ギャロップ、補足リズム)	
	1 5 回目	楽典のまとめ リトミックのまとめ	
到達目標	1. 知識・技能→音楽理論の基礎を理解し、様々な表現活動を行うことができる。 2. 思考力・判断力・表現力→音楽理論を理解し、ピアノや様々な音楽活動に活かして表現したり、簡単な即興や音楽づくり等の表現ができる。 3. 学びに向かう力→保育や教育現場での様々な表現活動に活用することができる。		
授業時間外の学習	毎回、前時の復習と予習をして授業に臨むこと。 基礎的な楽典の知識を高めていくために、楽譜を書いたり、プリント問題に取り組むこと。		
評価方法	小テスト (40%) 平常点 (60%) *遠隔授業に変更にした場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『コンパス音楽表現』駒久美子・味府美香編著（建帛社、2020年） 『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一（ヤマハミュージックエンターテインメントホールディングス 201		

	年) 必要に応じてプリントを配布。 *テキストは、他の音楽関係の授業でも併用し、2年次でも継続使用します。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	鍵盤ハーモニカは、楽典を理解したり音楽づくりの活動等で使用するので各自用意してください。 カスタネットは各自準備をしてください。 五線ノートは毎時間持参してください。 リトミックでは身体を動かすので、動きやすい服装で参加してください。 授業計画については履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード： 115002 215001

英文科目名称： The Constitution Of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
石田 厚 講師			
添付ファイル			

授業の概要	憲法は、国家の根本法規であり、国家の在り方を定めている重要な法であって、それを理解しておくことは、国民の務めともいえるものであります。日本国憲法は、前文及び103条からなる法典で、内容も広範囲にわたっており、講義内容も、国民主権、天皇、基本的人権、平和主義、統治機構など全般に及んでいくことになります。 遠隔授業を行うことになった場合には、①課題型学修によって、授業を行っていきます。人間教育学科の学習成果としましては、B-②を達成することになります。
授業計画	1 回目 法とは何か 2 回目 憲法とは何か 3 回目 実質的意味の憲法と形式的意味の憲法 4 回目 近代憲法と現代憲法 5 回目 憲法の法源 6 回目 憲法の解釈 7 回目 明治憲法の特質 8 回目 日本国憲法の成立 9 回目 国民主権 10 回目 選挙 11 回目 地方自治 12 回目 平和主義 13 回目 基本的人権（自由権） 14 回目 基本的人権（社会権） 15 回目 総括（まとめ）
到達目標	日本国憲法の基本原理である国民主権・基本的人権・平和主義について理解を深める。 特に基本的人権については、日常生活と関連づけながら具体的に考えることができるようにする。 学習成果の指標については、B-人間教育学科では、②となります。
授業時間外の学習	事前学習として、テキストの関連箇所を2回は読んでおくこと。
評価方法	授業への参加意欲（10％） レポート（20％） 定期試験（70％） 定期試験が実施でない場合には、課題レポートを提出してもらい、それを参考にして成績評価を行っていきます。
テキスト	『憲法入門〔第4版補訂版〕』伊藤正己・有斐閣
参考書	
備考	

講義科目名称： 市民生活と経済

授業コード： 125001

英文科目名称： Civic Life and Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	経済と聞くとちょっと難しそうに見えますが、経済は人間の活動、経済学は人間を研究する学問であり、私たちに身近なものであるとの視点から講義します。私たちの生活が経済活動であり、私たちが経済を動かし、物価変動や景気の動向、金利や株価、為替相場の変動を引き起こします。そして、物価が上がれば、生活しにくくなる、景気が悪くなると、就職しにくくなります。このように経済の動きが私たちの暮らしに大きな影響を及ぼします。私たちの暮らしをよりよく運営していくためには、家計を取り巻くこれらの経済環境や家計の所得や支出の各部分に影響を及ぼす要素について知ることが必要です。この講義では、経済は人間の活動で、人間生活に影響を及ぼすとの視点から、金融の問題や家計を成り立たせている所得と支出の中身を見ていきます。学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。		
授業計画	1 回目	経済学ってなに 自分たちの社会と経済を知る	
	2 回目	生まれたときから経済の担い手 消費者としての私たち、働き手としての私たち	
	3 回目	商品ってなに 生産物と商品、商品の性質	
	4 回目	お金（貨幣）ってなに 物々交換のなかから、貨幣はどうして生まれたか	
	5 回目	貨幣の機能（働き） 1 価格、金貨、紙幣、円の誕生	
	6 回目	貨幣の機能 2 貯める、後払い、世界との取引、為替手形	
	7 回目	企業ってなに 企業は何のために商品を作るのか、資本とは	
	8 回目	賃銀と生活レベルは 賃銀はどのようにしてきまる	
	9 回目	なんのために働くの 働くことの意味、雇用システムの変容	
	1 0 回目	経済生活のしくみをみよう 公共、不況・経済危機はなぜ起こる。私たちの就職はどうなる。	
	1 1 回目	日本の戦後改革 高度経済成長の準備	
	1 2 回目	日本の高度経済成長の光と影 どのようにして起こったか	
	1 3 回目	低経済成長への移行とバブル経済 現在に続く経済停滞	
	1 4 回目	主要な経済モデルの特徴と選択 主権者として私たちはどのような社会を目指すのか	
	1 5 回目	市民生活と経済のまとめ	
到達目標	私たちはいずれ社会に出て、生きていくためには、働いてお金を稼ぎ、ほしいものを買うなど、さまざまな経済活動を行います。そこで本講義では現代社会のなかのいろいろな経済問題を取り上げて、私たちの生活との関わりをなかで、少し秩序立ててみていき、よりよい生活をするためには何が必要かを考える能力を養います。		
授業時間外の学習	とくに予習の必要はありません。授業に出席し、一緒に考えてください。講義の後、ノートをみて、講義のポイントを振り返ってみてください。		
評価方法	授業態度（10%）課題提出（40%）試験（50%）の総合判断によります。オンラインに移行した場合、試験は行わず、授業態度（10%）課題提出（60%）授業時小テスト（30%）で評価します。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考書	講義時に紹介します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
都留 寛 教授			
添付ファイル			

授業の概要	特に、環境問題とSDGsについて解説する。 ①身近な環境問題の具体的な事例を通して、環境問題の原因や課題を明らかにする。 ②アクティブラーニングやクリエイティブシンキングの手法を体験しながら、自分らしい見方・考え方を創造する力を身につけさせ、環境問題についての認識を深めていけるようにする。 ③演習方式による理解を促す。 ④社会的事象の分析・整理・再構成の道筋を明らかにし、自分なりの見方・考え方を考案することができるようにする。 ⑤尚、学習成果の指標は、B-①と③である。 ⑥遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「Google meet)とを組み合わせる実施する。		
授業計画	1 回目	社会的事象の分析・整理・再構成とその方法 ・社会的事象と現象学 ・事象と事実 ・事実認識・意味認識・価値認識	
	2 回目	パンデミックと人類の対応 ・世界のパンデミック ・日本のパンデミック ・新型コロナウイルスと人々の生活の変化	
	3 回目	環境問題の発見 ・レイチェル・カーソン「沈黙の春」 ・人間活動の発展と拡大 ・人間活動と自然(資源の搾取と発展)	
	4 回目	日本の環境問題と歴史 ・田中正造と足尾銅山鉍毒事件 ・足尾銅山の今 ・日本の環境問題(経済発展と昭和の公害・四大公害の原因と経過そして結果)	
	5 回目	北九州方式と環境問題解決の視点 ・「七色の煙」と「輝く洞海湾」 ・未来に問いつける写真集「これが公害だ」 ・北九州方式と主婦の力による解決「青空がほしい」 ・世界が認めた「KITAKYUSHU PLAN」	
	6 回目	地球温暖化・オゾン層の破壊 ・産地移動・海水面温度と魚種交代 ・地球温暖化のメカニズムと世界的影響の実情(異常気象と温暖化) ・オゾン層破壊の現実と影響・熱帯雨林の減少の事実と影響 ・フロンガスの環境への影響・紫外線の生活への影響	
	7 回目	大気汚染 ・世界の大気汚染の現状 ・PM2.5の現実 ・地球温暖化とCO2の関係 ・エネルギー問題と環境	
	8 回目	水質汚染・海洋汚染 ・水質汚濁の原因と現状 ・海洋汚染の現状と影響 ・身近な海洋汚染(マイクロプラスチック)	
	9 回目	自然環境の破壊 ・生物多様性の必要と地球環境 ・希少生物・絶滅危惧種とレッドデータブック ・身の回りの在来種と外来種 ・砂漠化の原因と影響	
	10 回目	化学物質と環境(水俣事件を元に) ・水俣病の発生と問題化(海洋汚染の具体的な事例) ・原因究明と市民生活 ・水俣病患者と差別 ・水俣病裁判と患者の認定、そして、「舐い直し」と未解決の課題	
	11 回目	ゴミ・リサイクル ・廃棄される食料 ・分別とリサイクル ・資源としてのゴミ ・グリーンコンシューマと環境改善運動	
	12 回目	資源・エネルギー開発 ・私たちの生活とエネルギー消費	

	・限りあるエネルギー資源と自然エネルギー ・原子力エネルギーと工業生産 ・持続可能な社会の実現に向けての活動(COPの活動) 1 3 回目 自然災害と対策 ・東日本大震災と原発事故 ・放射能の影響と処理 ・クリーンエネルギーと工業生産・再生可能エネルギーと電力の自由化 ・自然災害が当たり前の日本 1 4 回目 近年の環境問題と対策 ・山と川と海の間を結ぶ活動「森は海の恋人運動」と里山思想 ・河川周辺の環境整備と牡蠣が育つ環境作り ・魚つき林と里山の手入れ ・全国の植林活動（北海道の昆布・広島のお牡蠣、等） 1 5 回目 環境問題の未来 ①ティッシュペーパーと江戸時代の庶民の暮らし ②グリーンコンシューマと廃棄物 ③ウォータービジネスと食のグローバル化 ※①～③から1つを選び、自分なりの考えをまとめて表現する
到達目標	①環境問題に関する基礎的な事項について理解し、説明できる。 ②環境問題に関する事例から要点を理解し、説明できる。 ③環境問題に関する事例を分析し、改善点について、考えたり、説明できたりすることができる。 ④アクティブラーニングの手法を使って、自立的な学習ができる。 ⑤クリエイティブシンキングの手法を使って、自分らしい表現・思考、判断ができる。 ⑥演習方式による理解を通して、社会的事象の分析・整理・再構成の道筋を明らかにし、自分なりの見方・考え方を考案することができる。
授業時間外の学習	①授業中に適時ノートを取り、ノートそのものが参考資料となるようにまとめる。 ②授業中に配布した資料はファイルし、整理しておくこと。 ③授業中に指定された参考文献は可能な限り読んで授業に臨むこと。 ④グループワーク（ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ、等）を行うので、自分なりに調べたり、考えたりして授業に臨むこと。 ⑤公共の図書館などを利用して、授業に関連した書籍や情報を進んで調べること。
評価方法	①毎回の授業の理解度についての小レポート（20%） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（20%） ③期末レポート（20%） ④学期末の筆記試験（40%） に基づいて評価する。 遠隔授業へ変更した場合は、 ①毎回の授業の理解度についての小レポート（60%） ②ディスカッション、プレゼンテーション、まとめ（20%） ③期末レポート（20%） に基づいて評価する。
テキスト	GoogleClassroomで資料をアップし、テキストとする。 必要に応じてその都度プリントを配布する。
参考書	授業の中で指示する。
備考	新型コロナウイルス等の感染拡大の状況により、遠隔授業を行う場合がある。 実務教員：初等教育学校社会科・生活科教諭として36年間勤務。公立学校15年間、附属小学校での社会科教育実践経験25年間。全国発表会での授業公開50回以上。小学校社会科教科書執筆12年間。海外教育使節団での社会科指導歴10年間の経験を持ち、学習指導要領の改訂に影響を与えた実践を積んできた実績を生かした授業を行う。

講義科目名称： 情報処理

授業コード： 112002 113002 121001
133001 214002 222001
223003 233001

英文科目名称： Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
吉田真理子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	「情報リテラシーの修得」 授業では、高度情報化社会において主体的に行動できるように、情報活用力を培うための基礎的な情報リテラシーなどの習得を目的としています。そのため、コンピュータの構成と機能を理解させ、身近な例題を用いた実習・課題作成などを通して、文書処理、表計算、データベース処理、プレゼンテーションなどの技術を習得します。 なお、学習成果の指標は、A－③とB－①である。 本授業は対面授業を実施します。ただし、必要に応じて遠隔授業を行わなければならない場合は、② 同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を中心に、① 課題型学修（「Google Classroom」を利用）または、③ オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。履修者へ遠隔授業などの連絡や課題の指示は、「Google Classroom」や「Gmail」を必要に応じて利用します。 なお、コンピュータを利用した授業であるため、授業の進度・レベルは、履修クラス別に習熟度を見ながら、内容を調整・変更して進める場合があります。遠隔授業の実施については、履修クラスの習熟度を見て2回程度行う予定です。
授業計画	1 回目 コンピュータの利用について （OSの概要、ファイルとフォルダ、データ管理、Google Classroom、GoogleMeet、その他の基本操作） 2 回目 Wordの活用① （レポートの書き方と書式、日本語入力と文書の保存、タイピング練習など） 3 回目 情報モラルとWordの活用② （情報モラル、個人情報、著作権、ビジネス文書の作成、ヘッダー/フッター、ナビゲーションウィンドウや操作アシスタントなどの表示と利用など） 4 回目 情報セキュリティとWordの活用③ （ネットワーク社会に潜む危険と対策、メールによるコミュニケーション、Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理、ビジネス文書の編集など） 5 回目 Wordの活用④ （文書の表示と印刷方法、表の作成と配置の変更、インデントの利用、表のデザインとレイアウト、セルの結合など） 6 回目 Wordの活用⑤ （ワードアート・図形・テキストボックス・オンライン画像の挿入と編集、オブジェクトの選択、グループ化など） 7 回目 Wordの活用⑥ （レポートの作成、段組み、検索と置換、文章校正、アウトラインなど） 8 回目 PowerPointの活用① （基本操作、スライドの作成とレイアウトの変更、デザイン、プレゼンテーションの表示、マスター表示、テキストボックスの描画、描画ツールなど） 9 回目 PowerPointの活用② （表・画像・図形・SmartArt・ビデオ・動作の挿入、アニメーションウィンドウとアニメーション、リンクなど） 10 回目 PowerPointの活用③ （画面切り替え、動画の挿入、スライドショー、アウトライン、課題とプレゼンテーションなど） 11 回目 Excelの活用① （基本操作、データ入力、オートフィル、ページレイアウトと印刷、表の作成と書式設定など） 12 回目 Excelの活用② （数式の計算と参照方式、統計・論理関数、並べ替えとフィルターなど） 13 回目 Excelの活用③ （検索／行列・数学/三角関数、ピボットテーブルなど） 14 回目 Excelの活用④ （グラフ作成、表とグラフの貼り付け、データベースの利用、練習問題など） 15 回目 Excelの活用③ （入力規則、マクロの作成など）とまとめ（総合問題）
到達目標	1. 知識・技能 ・コンピュータを利用して、データの編集、加工、整理するために必要な基本的スキルを身につけることができる。 ・習得した知識・技能を活用して、定型文書・プレゼンテーション資料・データの分析資料等を作成することができる。 2. 思考力・判断力・表現力

	・多様なデータや情報を収集・分析して、適正に判断・処理し、それを効果的に活用することができる。 ・作成したプレゼンテーション資料を活用して、表現力を磨くことができる。 ・実習を通してために探究心・思考力を培うことができる。 3. 学びに向かう力 ・実習を通して、学び合いから協同意識及び参加意識を身につけることができる。 ・身につけた知識と技術を活かして、問題解決のために柔軟に対応することができる。 ・学習を通して、基礎力を身につけ、キャリア形成力を養うことができる。
授業時間外の学習	1. 授業を欠席した場合について (1) やむを得ず欠席した場合は、当該授業の内容を次回までに確認しておいてください。 課題が出ている場合は、その提出期限を確認し、必ず指定日までに提出してください。 (2) 次回までに課題などの事前準備が必要な場合は、必ず授業開始前日までに取り組んでおいてください。 2. 事前学習（予習）について（90分） 毎回、予定されている授業計画を確認し、テキストの該当箇所を目を通しておいてください。次回の授業において、疑問点についての質問ができるようにメモを取ってください。 3. 事後学習（復習）について（90分） 毎回、授業時に行った内容について、テキストを参考に復習し、次回までに各自の理解度を確認しておくこと。 なお、授業時の課題が未完成の場合または授業外の課題が出た場合は、指示に従って作成し、期限内に提出してください。
評価方法	平常点（100％）。詳細は以下の割合で評価します。授業への参加意欲（20％）、演習課題（30％）、理解度確認テスト（50％）に基づき総合的に評価します。なお、授業時の演習問題及び授業外の課題が未提出の場合は評価できないため、課題等は指示に従って必ず提出してください。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はありません。
テキスト	主に配布資料を用います。なお、説明にはテキスト等を使用しますので、特に初学者やP C操作不得意者は、『情報リテラシー Windows 11 / Office 2021対応』（F O M出版、2022年）のテキストが手元にあれば理解の助けにもなります。テキストの購入については、初回授業時に説明いたします。
参考書	必要に応じて、Google Classroomなどで適宜紹介します。
備考	・授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業を実施する場合や各クラスの履修人数等の状況に応じて、「Google Classroom」及び「Google Meet」も併用して行う場合があります。 ・配布資料及びテキストの演習問題に基づいて作成したすべての作品・課題は、授業時または授業外において、指定の場所（学内ネットワークドライブ内）または、「Google Classroom」に提出していただきます。 ・授業計画は、履修クラスに応じて内容を調整、変更する場合があります。 ・第1回目は、授業に必要な登録や使用するテキスト、その他の大切な説明も行います。必ず出席してください。 ・公欠またはその他の理由で欠席した場合は、事前または事後に、必ず「欠席届」を提出してください。 ・授業において課題を完成させ、指定日までに必ず提出してください。なお、授業時にまたはやむを得ず欠席して未提出の場合は、提出方法を確認のうえ、指定日までに必ず提出してください。 ・オンライン授業（②型の同時・双方向型学修）を実施した際に、授業への参加がない場合、もしくは授業内に提出すべき課題が未提出の場合は、欠席となりますので注意してください。 ・授業は学んだ知識・技術を積み重ねて行きます。欠席が全授業数の3分の1以上にならないようにしてください。

講義科目名称： キャリアデザイン

授業コード： 141003 245001

英文科目名称： Career Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	高校までに進路指導やキャリア教育で、望ましい職業観、労働観の育成が図られてきた。しかし、新規大卒就職者の3割が3年以内に離職すると言われ、若者には職業生活への円滑な移行が望まれる。また、人生100年時代を迎える中、生き方や働き方について理解を深め、自分にふさわしいキャリアを構想する実践的な力を養うことが、一層求められている。学生時代にこの授業を通して将来を見据えて自分の長い人生を見つめなおす契機となることを期待する。 学習成果の指標は、A-①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 職業観、労働観の基礎（意義・目的） 2 回目 職業観、労働観の基礎（歴史・現状） 3 回目 ライフコースを知ろう 4 回目 「大人になる」ことの意味 5 回目 働くことを考える 6 回目 変化のなかの若者と意識 7 回目 大学から労働への移行 8 回目 企業のフレキシビリティと労働者のキャリア 9 回目 ワーク・ライフ・バランス 10 回目 世界をみすえたキャリアの在り方 11 回目 学びをいかし深める 12 回目 人生のロールモデルを探す 13 回目 なぜいまキャリアデザインか 14 回目 労働法制の基礎知識 15 回目 まとめ
到達目標	職業観、労働観について、基礎的な理解の上に、現実の雇用環境や就労事情等の具体的な動向を踏まえ、自分にふさわしいキャリアデザインを構想する実践的な力を身に付ける。
授業時間外の学習	新聞や書物を読んで、広い視野を養うように心がけましょう。
評価方法	ノート50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業に変更になった場合、レポート100%
テキスト	岩上真珠・大槻奈巳『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣、2014年
参考書	授業に関連する資料を随時配布する。
備考	実務教員：後期中等教育学校商業科目教諭・進路指導主事として37年間勤務。

講義科目名称： 生活と数学

授業コード： 261001

英文科目名称： Life and Mathematics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
橋本美智明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	「二次方程式なんて、生活で使ったことない」など、生活における数学の必要性を感じていない言葉を耳にする。 「算数・数学の実用性」をはじめ、「生活を支える基盤としての数学」や「人間性陶冶に寄与する数学」といった、数学学習の意義や価値を教養の一つとして学び、生活を豊かにしてほしいと思う。そして、我々には、「文化遺産としての数学」を後世に継承していかなければならない、という義務のあることにも気付いてほしい。 上記の目的に迫れるよう、〔①身の周りにある「数学」を見出す。②それをレポートにまとめる。③レポートを発表する。〕という形式で授業を行う。 なお、学習成果の指標はA－③と、B－② である。 遠隔授業を実施する場合には、①課題型学修により実施する。
授業計画	1 回目 生活の中にある「数」① 「数」についての講話と問題演習。 2 回目 生活に生かしたい「計算」① 「計算」についての講話と問題演習。 3 回目 生活を支える「量と測定」① 「量と測定」についての講話と問題演習。 4 回目 生活に潤いを与える「図形」① 「図形」についての講話と問題演習。 5 回目 生活を広げる「関数」① 「関数」についての講話と問題演習。 6 回目 生活を豊かにする「統計」① 「統計」についての講話と問題演習。 7 回目 驚くべき「数学」 「数学パズル」についての問題演習と講話。 8 回目 生活の中にある「数」② 「数」についてレポートを作成し、それを基に20分程度の発表を行う。 受講者は、発表に対するコメントを書く。 9 回目 生活に生かしたい「計算」② 「計算」について、上記8回目と同様 10 回目 生活を支える「量と測定」② 「量と測定」について、上記8回目と同様 11 回目 生活に潤いを与える「図形」② 「図形」について、上記8回目と同様 12 回目 生活を広げる「関数」② 「関数」について、上記8回目と同様 13 回目 生活を豊かにする「統計」② 「統計」について、上記8回目と同様 14 回目 美しい「数学」 「生活の中にある数学」についての講話と演習 15 回目 人間教育としての「数学」 「人間教育としての数学」についての講話と演習
到達目標	身の回りの「数学」に気付き、そのよさについて自分なりの見方や考え方をもち、表現することができる。 また、他者の発表を聞くことにより、知識の幅を広げる。
授業時間外の学習	身の回りにある「数学」についてレポートとしてまとめる。
評価方法	授業への参加意欲・態度（60％）、レポート・発表、作品等（40％） 遠隔授業にした場合は、授業への参加意欲・態度（40％）、レポート、作品等（60％）
テキスト	題材ごとに資料を配布する。
参考書	授業の中で紹介する。
備考	持ち物等は、授業の中で連絡する。

講義科目名称： 化学と生活

授業コード： 231001

英文科目名称： Chemistry and Life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	化学は、生きていく上で必要な分野であり、日常生活に深く関わっている。ここでは、原子や分子、化学反応など基礎的な科学の知識から、食や衣など、生活の中の化学について理解を深めることを目的とする。 授業では、化学の基礎知識の講義、またより理解を深めるため簡単な実験・実習を行う。 なお、学習評価の指標はA－③とB－②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。
授業計画	1 回目 1. 化学の歴史 2 回目 2. 元素の周期表・原子と分子 実習：分子模型を組み立てる 3 回目 3. 物質の状態 実験：尿素の結晶を作る 4 回目 4. 酸と塩基 実験：身の回りの物質のpHを調べよう 実験：石鹼（弱アルカリ性）を食用油から作り、汚れの落ちる仕組みを調べる 5 回目 5. 酵素と発酵 実習：酵素の入っているものを調べる 実験：アミラーゼの働きを調べる 6 回目 6. 色と光 実験：色の見える仕組みを調べる 実験：三原色のインクを使って色ペンを作り、色の名前を調べる 7 回目 7. 高分子 7－1－1 天然の高分子 実験：葉っぱから葉脈標本を作る 8 回目 7. 高分子 7－1－2 天然繊維 実験：髪の毛を調べる 9 回目 7. 高分子 7－2－1 プラスチック 実験：牛乳からSDGs（生分解性）なプラスチックを作る 10 回目 7. 高分子 7－2－2 合成繊維 実験：アセテートを生成する 実験：ナイロン66を合成する 11 回目 7. 高分子 7－3 機能性高分子化合物 実験：洗濯糊からスライムやスーパーボールを作成する 12 回目 8. 生活の中の化学 8－1 食品の化学 実験：タンパク質分解酵素を含むキウイのゼリーを作る 13 回目 8. 生活の中の化学 8－2 衣服の化学 実験：繊維を燃やす 14 回目 8. 生活の中の化学 8－3 生活の化学 実験：入浴剤を作る 15 回目 まとめ
到達目標	化学の基礎が理解でき、特に健康と生活の分野で、日常生活の中で起きる現象を化学的視点で考えることができる。
授業時間外の学習	毎日の食事の際、成分を調べたり、摂取した栄養素を調べる。また、着ている衣服や日常使用している物の成分を調べ、どのようなもので出来ているのか、どのような性質なのかを調べる。
評価方法	実験・実習などのレポート：100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 生命の進化

授業コード： 245002

英文科目名称： The Evolution of life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
後藤正人 教授			
添付ファイル			

授業の概要	地球上のあらゆる生物（動物・植物）が、その時々の中で様々な手段を駆使して必死に生き続けようとしている姿から、生命体が種の保存をかける「生命力のたくましさや不思議さ」について考察する。また、自然界で動植物が生き延びていくためには、その時々での自然環境に適応するための様々な戦略と挑戦がある。生命の進化は、40億年という気の遠くなるような時間の経過がある。そこで、視聴覚教材を有効活用しながら、生命の進化を紐解き、ヒトが生命の進化にどのような影響を及ぼしているのかを考察していく。なお、学習成果の指標はB-③である。 本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と ②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 生命40億年はるかな旅（オリエンテーション） 2 回目 生命の不思議な力「タネの知恵」 3 回目 生命の息吹を直に感じ取る－野外学習 4 回目 海からの創世 5 回目 進化の不思議な大爆発 6 回目 魚たちの上陸作戦 7 回目 花に追われた恐竜 8 回目 大空への挑戦者 9 回目 奇跡のシステム「性」 1 0 回目 昆虫たちの情報戦略 1 1 回目 ヒトがサルと別れた日 1 2 回目 ヒトはどこへ行くのか 1 3 回目 地球と共に歩んで 1 4 回目 生命の進化の向かうところ 1 5 回目 地球と生命は共生体（まとめ）
到達目標	○地球上のあらゆる生物（動物・植物）が、その時々の中で様々な手段を駆使して必死に生き続けようとしている姿から、生命体が種の保存をかけて営む「生命力のたくましさや不思議さ」に気付くことができる。 ○本講義科目を通して、生命の神秘さに目を見張る豊かな感性を身につけることができる。
授業時間外の学習	○講義並びに視聴した内容を踏まえて、新たな気付きや発見・疑問などを所定のレポート用紙に記述し、次の授業時まで提出する。 ○民間人が宇宙に飛び立つ時代に入ったことで、宇宙的視野から地球の未来を考えるようにする。
評価方法	授業への参加意欲・小レポート・課題の提出（50%）、授業時に行う小テストの結果（50%）に基づいて評価する。遠隔授業になった場合も同様である。
テキスト	後藤正人『教育の泉 6：生活科で魅力ある学級づくり』（株式会社 文溪堂、2014年）
参考書	
備考	その都度、講義資料を配布。諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。 実務教員：初等教育学校理科・生活科教諭として35年間勤務。

講義科目名称： 日本人の起源と進化

授業コード： 145001

英文科目名称： Origin of Japanese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
大工原 豊 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本列島における人類の出現、大陸・半島からの渡来、環境や文化による生活の変化などについて、考古学と人類学の観点から学びます。 旧石器時代における日本列島への渡来、縄文時代～近世の人骨の特徴、墓の特徴、親族関係などについて時代を追って紹介します。 日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA－①です。 このうち2回は遠隔授業を行います。（事前にどの授業で実施するか指定します） なお、遠隔授業となる場合はオンデマンド型で実施します。
授業計画	1 回目 人類学入門 2 回目 現代日本人の特徴 日本人とは何か？ 現代日本人の成り立ち 3 回目 人類はいつ日本にやって来たか？ 日本最古の人類遺跡 旧石器時代の人類化石 4 回目 日本列島人の形態と遺伝子 DNAから見た日本人の特徴 5 回目 旧石器時代の人々 日本列島への現生人類（ホモサピエンス）の到来 北方ルート・朝鮮ルート・南方ルート それ以前に人類はいたか？ 6 回目 縄文時代はじめの頃の縄文人 ・早期の縄文人の特徴（居家以岩陰遺跡の縄文人） ・土器群と石器群からみた行動パターン 7 回目 縄文時代の人々（1） ・縄文時代の墓制（屈葬から伸展葬へ） ・土壙墓と配石墓 ・埋葬人骨の特徴（多人数合葬と単独葬） 8 回目 縄文時代の人々（2） ・人骨から分かる食べ物（C13分析） ・歯から分かること（生業・年齢） ・文化習慣・しぐさ（蹲踞姿勢） 9 回目 弥生時代の人々 ・北九州の甕棺墓（戦いで死んだ人々） ・土井ヶ浜の人骨 ・関東の再葬墓 1 0 回目 古墳時代の人々 ・古墳に埋葬された被葬者 ・金井東裏遺跡の人骨 1 1 回目 古代の人々 ・火葬される人骨 ・中尊寺金色堂のミイラ 1 2 回目 中世の人々 ・墓から出土した人骨（板碑・五輪塔・宝篋印塔） ・戦場から出土した人骨（鎌倉材木座の人骨・首塚） 1 3 回目 近世の人々 ・庶民の顔、大名・公家の顔 ・江戸から出土した人骨（病気の痕跡） 1 4 回目 北と南の人々 ・アイヌと沖縄の人々 1 5 回目 まとめ 授業の総括
到達目標	・日本人の成り立ちについて理解できる。 ・旧石器時代から江戸時代にかけての日本人の特徴、墓制の変遷を理解することができる。
授業時間外の学習	・日本人のなりたちに関する最新の報道や展覧会などに関心を持って接する。
評価方法	授業の総括（70%） 平常点（30%） 授業時に提出する課題・小テスト・授業態度から評価する。

テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	実務教員：教育委員会社会教育課・文化振興課等に26年間勤務、文化財保護主事・学芸員。

講義科目名称： 心と美術

授業コード： 122001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
後藤聡子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	現在そして今後、ますます「人間力」の豊かさが求められています。受容と共感のアート体験の実践を通じた気づきや自己内省を繰り返すことで、自己がもつレジリエンス(耐性)の強化や表出と他者受容の連続性の中で意識の変容を促し、自己肯定感の向上に繋げることができる。この科目では自他共の「心」に主眼をおき、臨床美術の実践を軸に柔軟な表現力を身に付け、対人援助のアートの実践に必要な視点と能動的な発信力、コミュニケーション能力を修得します。同時に競争の美術ではなく、共生の美術の実践を支える豊かな人間観について学びを深めます。 なお、学習成果の指標はB－③である。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 「つながる」と「アート」の関わりを考える。 作品制作「線・面・点のクロッキー」「いろいろな線と色で遊ぼう」（実践に役立つ手法・オイルパステルの抽象表現）	
	第2回	美術表現の理解 アナログ画で描く自己表現。作品制作「春」（j実践に役立つ手法・オイルパステルの抽象表現）	
	第3回	絵は誰でも描ける？ 「感じる」から「表現」へ。作品制作「味のアナログ画」 （実践に役立つ手法・オイルパステルの抽象表現）	
	第4回	誰もがみんな芸術家 QOLを高めるアート。作品制作「マイエモーション」	
	第5回	誰もがみんな芸術家 実践現場から～認知症の改善・予防事業 作品制作「音のアナログ画」	
	第6回	誰もがみんな芸術家 実践現場から～ クリニカルアート。心と身体の疾病・障がい支援。 作品制作「マイステンドパネル」	
	第7回	誰もがみんな芸術家 モチーフを感じる・見つける。ナラティブに触れる制作活動 作品制作 「りんごの量感画」	
	第8回	アートコミュニケーション (1) I (アイ) メッセージの大切さ 作品制作「珍獣を描く」	
	第9回	アートコミュニケーション (2) 鑑賞会をしてみよう①。みんなちがってそこがいい 作品「前週の作品」	
	第10回	アートコミュニケーション (3) 寄り添うということ・制作過程のコミュニケーション。 作品制作「つながる一つの形」	
	第11回	アートコミュニケーション (4) 鑑賞会をしてみよう②。ノンバーバルな世界を言語化して伝えてみよう。	
	第12回	アートコミュニケーション (5) 実践現場から～小学校での事例・子どもとアート。 作品制作 「色のアラベスク」	
	第13回	ひとりにしないアートの役割 ストレスフルな社会の中で、生きづらさを生きるに役立つアート。 作品制作 「共同制作」	
	第14回	対人援助の実践を支える 「いてくれてありがとう」 存在論的人間観	
	第15回	まとめ 「今を生きる」を応援するアート。	
到達目標	*美術表現についての知識を理解し、アート活動を実践できる多様な表現スキルを習得する。 *五感を活用し感じるままに表現する感性アート活動で、自己理解や心の解放を実感することができる。同時に、他 者の思いを尊重し受容できる学修をすることができる。 *対人援助としてのアートの実践に必要なマインドを理解し、他者理解やコミュニケーション技能を身につける。		

	※本講義科目は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業実施が必要となった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時双方向型学修（「Google Meet」を利用）と組み合わせて学修する。
授業時間外の学習	・講義並びに実践したものを踏まえて、新たな気づきや発見・疑問などをレポート用紙に記述し、次回の授業時までに提出する。
評価方法	・授業への参加意欲・関心・態度（40％）小レポート（20％）課題への取り組み（40％）遠隔授業になった際も同じである。
テキスト	必要に応じてプリント配布。
参考書	『金子健二の言葉から学ぶ 触れる・聞く・ほめる。』（日本地域社会研究所） 『臨床美術』金子健二編（日本地域社会研究所） 『生きるを励ますアート～五感・マインドフルネス・臨床美術』（クリエイツかもがわ）
備考	・諸般の事情により、作品制作の内容は変更することがある。 ・画材は指定のものを使うこと。指示のあるものは、各自が事前に用意をすること。 ・学習資料については、必要に応じて配布。

講義科目名称： 韓国事情

授業コード： 800002

英文科目名称： ---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	協定校である、韓国・漢陽女子大学校の協力を得て、短期研修プログラムを企画した。このプログラムによって韓国を訪問し、韓国の社会・生活・文化等を理解する。学習成果の指標は、A－①③、B－①③で全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。		
授業計画	1 回目	現在の韓国事情及び日韓関係を学ぶ。（事前指導）	
	2 回目	2 回目から 1 2 回目まで 7 泊 8 日の研修プログラムの通り、漢陽女子大学校で「コリア及び韓国事情」についての講義を受講、体験学習（校内・校外）、日本語通翻訳科の学生との交流、ホームステイ等を通して韓国の社会・生活・文化などを学ぶ。	
	3 回目	コリア語授業（文字）	
	4 回目	コリア語授業（発音）	
	5 回目	コリア語授業（文法）	
	6 回目	コリア語授業（会話）	
	7 回目	体験学習（宮廷作法）	
	8 回目	体験学習（陶芸作成）	
	9 回目	ホームステイ	
	1 0 回目	体験学習（世界遺産見学）	
	1 1 回目	体験学習（ソウル市内見学）	
	1 2 回目	修了式	
	1 3 回目	（帰国後、課題レポートを提出）	
	1 4 回目	学生発表	
	1 5 回目	課題レポート及び発表をもとに、改めて韓国事情について考える。	
到達目標	異文化の体験を通して、緊張の続く朝鮮半島の諸問題について、より広い視野で深い見解がなされるようにする。		
授業時間外の学習	出発前に基本的マナー、韓国文化について学んでおく。		
評価方法	授業（短期研修プログラム）への参加意欲(80%)と課題レポート(20%) 全面遠隔授業の場合も同様に評価する。		
テキスト	プリント資料を配付。		
参考書	テーマに沿って、その都度参考文献を紹介する。		
備考	短期研修プログラムに参加すること。		

講義科目名称： 神道概論Ⅱ（神道と社会）

授業コード： 252001

英文科目名称： Introduction to Shinto 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	神道概論Ⅰの学習を継承して、神道の時代的変遷について具体的事例を講義する。古代から現代に至る神道の姿を体系的に説明することで神道の歴史を概観し、神道思想・祭祀の特質を解明してゆく。日本人の精神文化の基礎に位置づけられる神道の祭りと祈りの伝統を通して、日本の文化的特徴と祭祀の変遷を学ぶ。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、③オンデマンド型学修(Google Meetを利用)で実施する。 なお、学習成果の指標はA - ①とB - ①である。
授業計画	1 回目 神話と祭祀の成立 2 回目 言挙げせぬ国の神まつり 3 回目 三輪山と沖ノ島の祭祀遺跡 4 回目 天皇と神社の祭祀体系 5 回目 律令国家と神祇令 6 回目 神宮祭祀 7 回目 神仏の融合 8 回目 中世神道思想の展開・1 9 回目 中世神道思想の展開・2 1 0 回目 庶民信仰の隆盛 1 1 回目 幕府の神祇制度と国学 1 2 回目 日本の近代化と神道 1 3 回目 戦後の神社神道と国際社会 1 4 回目 神道祭祀と年中行事 1 5 回目 神道の研究領域と関連諸学
到達目標	神道を通史的にを学ぶことで、日本および日本人の基層理解を深めることができる。天皇祭祀と祖先崇拝の特徴を学び、説明できるようになる。神話の古代から国際社会の現代までの神道の変遷過程を主軸にした日本の祭祀伝統を体系的に学習することで、巨視的に歴史を俯瞰する能力を身につける。学生個々人が帰属する歴史文化に価値と意味を見だし、主体的に説明することができることを目標とする。
授業時間外の学習	受講するにあたって、予め教科書を一読し、読めない漢字・わからない意味を調べておくこと。授業後は復習を行い、重要事項の理解を深めること。授業時に疑問に思った事を自ら調べてまとめる。
評価方法	小テスト・レポート（50%） 最後の授業での小テスト（50%） 遠隔授業に変更した場合はレポート（50%）平常点（50%）
テキスト	岡田荘司・小林宣彦 編『日本神道史』増補版 吉川弘文館 2021（令和3）年

参考書	渡部眞弓『神道と日本仏教』ぺりかん社 2020（令和2）年 渡辺瑞穂子『元旦四方拝の研究』啓文堂書房 2020（令和2）年
備考	

講義科目名称： 政治と人間

授業コード： 254001

英文科目名称： Politics and Human Beings

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
杉山 亮 講師			
添付ファイル			

授業の概要	私たちが生きる民主主義社会を営んでいくための政治の仕組みについて講義します。政治の基本概念、日本政治の仕組みを理解した上で、国際政治の見方、グローバルな諸課題などについてテキストに沿って学んでいきます。 本授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）により実施します。 なお、学習成果の指標はA-③とB-③である。
授業計画	1 回目 はじめに——「政治」とは何か 2 回目 政治を駆動するもの権力（パワー）とは 3 回目 主体を伴う権力 4 回目 構造としての権力 5 回目 デモクラシーって何だろう？ 6 回目 代表制を考える 7 回目 選挙 8 回目 投票 9 回目 政党 1 0 回目 政党システムと政権 1 1 回目 意思決定と政策過程 1 2 回目 権力の分割 1 3 回目 ” 政治家” と呼ばれる人々 1 4 回目 地方分権と連邦制 1 5 回目 政治を活性化するアイデアー参加・熟議・偶然
到達目標	・現代政治の原理・制度・実践について基本的な知識を身につけ、社会人として必要な政治的教養を得る。 ・日本と世界における政治的事象を的確に理解し、説明することができる
授業時間外の学習	講義前にシラバスに記載した章を一読すること。日頃から政治や社会、国際問題に関するニュースに積極的に接すること。講義後はレジュメに記載した参考文献などを用いて復習すること。
評価方法	毎回のコメント・質問シート（30％）：各講義に対する理解度を評価する 最終レポート（70％）：授業全体の目標への到達度を評価する 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	砂原庸介ほか『政治学の第一歩（新版）』有斐閣、2020年 講義ごとにレジュメを配布する。
参考書	加茂利男ほか『現代政治学 第4版』有斐閣、2012年 中村昭雄『基礎からわかる政治学 増補新装版』芦書房、2012年 川出良枝『政治学』東京大学出版会、2012 *その他の参考文献は授業内で紹介する。
備考	

講義科目名称： 人類の起源と進化

授業コード： 245003

英文科目名称： Human Origin and Evolution

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
大工原 豊 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現在、人類はホモ・サピエンス 1 種ですが、700 万年間の歴史の中では、様々な種類の人類が暮らしてきました。それらの人類や現生の霊長類の姿をもとに、我々人類の存在を考えてみたいと思います。この授業ではそれらの人々の骨格や暮らしぶりについて、形質人類学・考古学・DNA 研究などの最新の知見をもとに、写真やイラストを提示しながら紹介します。日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標は A－① です。このうち 2 回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します）なお、遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。	
授業計画	1 回目	ヒトの進化について ・人類の系統樹 ・形質人類学と文化人類学 ・DNA 分析の急速な発達
	2 回目	アフリカの初期人類 ・700 万～100 万年前の人類 ・絶滅した人類 ・二足歩行の始まり
	3 回目	ホモ・エレクトス ・ジャワ原人 ・北京原人 ・ハイデルベルク人
	4 回目	ネアンデルタール人とデニソワ人 ・ヨーロッパのネアンデルタール人 ・シベリアのデニソワ人
	5 回目	現生人類（ホモ・サピエンス）の登場 ・ミトコンドリアイブ（20 万年前の 1 人の女性の遺伝子） ・アフリカのホモ・サピエンス
	6 回目	交雑する人類 ・現生人類に受け継がれた旧人の DNA
	7 回目	ネアンデルタール人の絶滅 ・ネアンデルタール人の狩猟
	8 回目	脳の発達と心・言語 ・初期人類と現生人類の脳の違い ・心と認知機能の発達 ・コミュニケーション能力・言語の発達
	9 回目	グレートジャーニーの始まり ・ホモサピエンスの出アフリカ（地峡か海峡か？） ・海岸ルートと内陸ルート ・トバ火山の破滅的噴火の影響
	1 0 回目	ユーラシア大陸へのホモ・サピエンスの拡散 ・ヨーロッパへの拡散（クロマニオン人） ・アジア・オーストラリアへの拡散（内陸ルートと海岸ルート） ・生き残っていた猿人（ホモ・フロレスiensis）
	1 1 回目	アジアのホモ・サピエンス ・古モンゴロイド（南方系）と新モンゴロイド（北方系） ・寒冷地適応
	1 2 回目	日本へ到達した人類 ・北方ルート・朝鮮ルート・南方ルート（石刃石器群の伝播） ・白保竿根田原洞穴の人骨・港川人 ・局部磨製石斧と台形様石器の意味
	1 3 回目	アメリカ大陸への拡散・海への進出 ・ベーリンジアを超えて ・グレートジャーニーの終わり ・ハワイ諸島への到達
	1 4 回目	人類の現在と未来 ・現在の状況 ・未来の人類は？
	1 5 回目	まとめ 授業の総括
到達目標	・「人類」とその一部である現生人類（ホモサピエンス）の多様性と共通性を理解できる。 ・ホモサピエンスの世界への拡散（グレートジャーニー）について理解し、説明できる。	

	・世界各地に現在生きる人たちの様々な特徴が、歴史的・生態的な要因で形成されてきたことを説明できる。 ・人類の現状と未来について科学的に理解することができる。
授業時間外の学習	人類や日本人の成り立ちに関する報道や展覧会に積極的な関心を持って接すること。授業時に配付資料、紹介された図書を読んで予習・復習を行うこと。また、『ニュートン』や『ナショナルジオグラフィック』などの雑誌の人類学の情報に目を通し、常に最新の研究動向について調べておくこと。
評価方法	授業の総括（70%） 平常点（30%） 授業時の課題・小テスト・授業態度により総合的に評価する。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	『人類史マップ』テルモ・ピエバニ、バレリー・ゼトゥン，2021年，日経ナショナルジオグラフィック社，3200円＋税 『人類の起源』篠田謙一，2022年，中公新書，960円＋税 『ヒトの進化七〇〇万年史』河合信和，2010年，ちくま新書，860円＋税 『交雑する人類』デイビッド・ライク，2018年，NHK出版，2500円＋税 『人類の足跡10万年全史』スティーブン・オッペンハイマー，2007年，草思社，2400円＋税 『心の先史時代』スティーブン・ミズン，1998年，青土社，3200円＋税 『ヒトだけが獲得した「長い老後」には重要な意味があった』小林武彦，2023年，講談社現代新書，900円＋税
備考	

講義科目名称： 日本の歴史と文化

授業コード： 115003

英文科目名称： Japanese History and Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
坂本達彦 教授			
日本近世史	地域史		
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、主に本学の位置する栃木市周辺（栃木県・群馬県）を事例に、近世の人々の生活や文化を講義します。講義内容から、日本の歴史と文化に関する知識を獲得し、それをもとに自ら調べ、日本語の文章で表現する力を養ってください。なお、5月中は教育実習のため欠席する学生が多いので、4回程度をオンデマンドで行う予定です（受講者の様子を聞いて決定します）。 なお、学習成果の指標はA-①・②とB-①です。 全面遠隔授業になった場合は、状況を見て同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修で行います。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 江戸時代の日光山 3 回目 中世から近世へ 4 回目 近世初期における村落秩序の動揺 5 回目 宿場と河岸 江戸時代の巴波川と日光山裏道について講義します 6 回目 江戸時代の共同体 7 回目 江戸時代のコモンズ 江戸時代の秣場、沼など入会地について講義します 8 回目 江戸時代の衣食住① 江戸時代の衣類・食事について講義します 9 回目 江戸時代の衣食住② 江戸時代の食事・住居について講義します 1 0 回目 江戸時代のライフサイクル 1 1 回目 江戸時代の病と死 1 2 回目 合戦場一件から見る地域社会 1 3 回目 旅人の見た下野国の風景―小津久足の場合― 1 4 回目 尊王攘夷思想と水戸天狗党 1 5 回目 まとめ
到達目標	日本の歴史・文化を理解し、自らの文章で説明することができる。 授業の配布資料と参考文献に基づいて思考し、レポートを作成することができる。
授業時間外の学習	授業で配布した資料をもとに、毎回のコメントペーパーを作成してください。 コメントペーパーに誤った理解が記されている場合は指摘するので、しっかりと復習してください。 単位レポートの準備は授業時間外に行ってもらいます。
評価方法	平常点（各回のコメントペーパー）40%、単位レポート60%。 レポートの内容は、授業で取り上げた内容について、より詳しく調べて作成してもらいます。 教育実習などで全ての授業に出席できない学生もいるとおもうので、受講した中で関心を持った回のテーマをレポートの題材にしてください。 提出期限については、授業時に説明します。
テキスト	プリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	履修者数により、計画を変更します。

講義科目名称： シニアイングリッシュA

授業コード： 131001 142002

英文科目名称： Senior English A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
乙黒 晃 講師			
添付ファイル			

授業の概要	英語の文章を書くためのスキルを伸ばす。日本語と英語の文章構成の性質の違い、特徴を理解する。「パラグラフ・ライティング」の概念を理解し、英語的なパラグラフを表現するための練習をする。将来日本的な事象について英語で説明・発信する能力を養う。学習成果の指標はA-①とB-③である。遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修と③オンデマンド学修（「Google Classroom」を利用）を併用して実施する。		
授業計画	1 回目	Unit 1 A Paragraph as a Product 授業内容についての導入 (1)パラグラフの基本構造・構成 (2)ディスコース・マーカークの働き Task 1-1～1-5	パラグラフは「段落」じゃない
	2 回目	Unit 1 Explanation & Exercises Task 1-6～1-7、Focusing on Form 補助教材による演習	
	3 回目	Unit 2 Writing a Topic Sentence Task 2-1～2-3 補助教材による演習	主題文で要点を宣言
	4 回目	Unit 2 Explanation & Exercises Task 2-4～2-5、Focusing on Form 補助教材による演習	
	5 回目	Unit 1 ～ Unit 2 まとめ Topic Sentenceについての理解度を確認する	
	6 回目	Unit 3 Writing Supporting Sentences Task 3-1～3-3 補助教材による演習	支持文で強力にサポート
	7 回目	Unit 3 Exercises Focusing on Form 補助教材による演習	
	8 回目	Unit 4 Writing a Concluding Sentence Task4-1～4-4、Focusing on Form 補助教材による演習	結論文で念押し
	9 回目	Unit 3 ～ Unit 4 まとめ Supporting sentencesについての理解度を確認する	
	1 0 回目	The Process of Paragraph Writing Task 1～9 補助教材による説明・演習	
	1 1 回目	Unit 6 Describing Your Daily Life Task 6-1～6-5 補助教材による演習	大学生活は大変？ それとも楽チン？
	1 2 回目	Unit 6 Explanation & Exercises Task 6-6～6-9、Focusing on Form 補助教材による演習	
	1 3 回目	Unit 7 Explaining an Opinion Task 7-1～7-7 補助教材による演習	歩きスマホやめてくれない？
	1 4 回目	Unit 7 Explanation & Exercises Task 7-8～7-9、Focusing on Form 補助教材による演習	
	1 5 回目	まとめ 英語のParagraphの理解度を確認する	
到達目標	パラグラフの概念やその構成を理解し、英文や文章を作ることができる。単なる日本語を英語に置き換える作業的な和英訳ではなく、伝えるべきテーマを理解し、それを英語という言語の特徴を理解した文章構成で書くためのスキルを身につける。自身に関係する題材や日本・世界に関する題材について自分の意見や考えを英語で表現し伝えることができる。		
授業時間外の学習	各UnitのTaskについて、わからない英単語や英語表現について最低限、英和辞書を使って調べておくこと。また、Taskの内容についてある程度理解しておくこと。授業で課されたレポート等の課題に取り組むとき、和英辞書等で調べた単語・語句が、実際の英文や文脈の中で使えるかどうかを、必ず英和辞書の文例で調べておくことを推奨する。		
評価方法	平常点（毎回の授業内容の理解度確認評価、課題レポートを含む）70%		

	まとめ確認テストによる評価 30% 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	静 哲人 『Writing Facilitator - 構造から学べるパラグラフ・ライティング入門』〔改訂版〕（松柏社、2019年・発行） 補助教材（プリント教材）
参考書	授業には、英和辞書を必ず持参すること。高校のとき使用した英語表現の教科書や英文法参考書を利用して、テキスト内容について理解を深めるのもよい。予習・復習・レポート作成等のために、インターネット上での無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web、DMM英会話等）を利用するのも推奨。
備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。 授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進捗と内容に多少の変更がなされる場合がある。 当該授業を受講する学生は、必ず、Google-Classroomへの登録をすること。このClassroomを通して、授業活動の予告や課題指示、また、授業関係の資料等を配信する。 提出課題等を作成・提出する場合は、手書きのものも認めるが、PC等で作成したものをプリントアウトしたもの、あるいは、その電子データをGoogle-Classroomによるメールで提出することが望ましい。

講義科目名称： シニア イングリッシュ B

授業コード： 124003

英文科目名称： Senior English B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	さまざまなテーマの、350 words程度の英文を読む。英語の語彙や文法や構文を意識しながら、文章の正確な読解をめざす。学生中心の授業となるので、学生は予習が必須となる。 なお、学習成果の指標はA-①とB-③とである。 遠隔授業を実施する場合には、②同時双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 オリエンテーション・Helping Others の前半 2 回目 Helping Others の後半 3 回目 Yuna Kim の前半 4 回目 Yuna Kim の後半 5 回目 Movie Directors の前半 6 回目 Movie Directors の後半 7 回目 前半のまとめと復習 8 回目 Coffee Culture の前半 9 回目 Coffee Culture の後半 10 回目 Around the World の前半 11 回目 Around the World の後半 12 回目 The Puffer Fish の前半 13 回目 The Puffer Fish の後半 14 回目 Technology in the Classroom 15 回目 後半のまとめと復習
到達目標	四年生大学への編入試験や就職試験に対応できる英語の基礎力と読解力を身につける。 特に、平易な英文を読解する力を身につけることを目標とする。それは専門課程に進んだ後、英語の文献を読みこなして知識・情報を得るための基礎となる。
授業時間外の学習	まず授業を効果のあるものとするために必ず予習をすることが大切である。また語学の習得には毎日継続して学習することが肝要であるから、授業の有無にかかわらず日々の学習を習慣化してもらいたい。英語の新聞雑誌や書籍に少しでも慣れ親しみ、そこから知識・情報を得るということをできるかぎり心がけてもらいたい。
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況 20% 試験 80% 遠隔授業に移行した場合には、上記の評価配分を変えることがある。
テキスト	『Reading Advantage 2』（Cengage）
参考書	英語の辞書は授業時には必ず用意してもらいたい。英和辞典でも英英辞典でもよい。 また、高校時代の英文法の教科書や参考書も再利用するとよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合がある。

講義科目名称： シニア イングリッシュ C

授業コード： 145002

英文科目名称： Senior English C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
戸叶行一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	基本的な英文のルールを中心に基礎を固める。「動詞」を中心とした各項目を整理し、それらと各品詞（名詞・形容詞・副詞・前置詞など）を有機的に結びつけることによって、英文の構造を把握する方法を学ぶ。テキストの解説で基本的知識を整理し、「基本問題」「発展問題」「長文問題」を解くことによって要点を確認する。 なお、学習成果の指標はA-①と B-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。		
授業計画	1 回目 ガイダンス be動詞 2 回目 一般動詞（現在） 3 回目 一般動詞（過去） 4 回目 進行形 5 回目 未来形 6 回目 助動詞 7 回目 前半のまとめ 8 回目 名詞・冠詞 9 回目 代名詞 1 0 回目 前置詞 1 1 回目 形容詞・副詞 1 2 回目 比較 1 3 回目 命令文・感嘆文 1 4 回目 接続詞（I） 1 5 回目 後半のまとめ		
到達目標	英文法の基礎・基本となる「動詞」を中心に理解を深め、名詞・形容詞・副詞・前置詞などの主要な品詞を学習することによって、英文の構造をきちんと理解できることを目標とする。単語レベルだけでなく、句や節の働きを理解することによって、英文の構造を明らかにし、英文の内容を速く、正確につかめるようになることを目指す。		
授業時間外の学習	授業をより効果的なものにするために、不明な英単語・熟語等の意味を調べることや、テキストの練習問題に解答しておくことが必要である。さらに、英文の音読や音読筆写を復習として行うと一層の進歩が期待できる。		
評価方法	小テスト（70％）平常点（30％） 遠隔授業に変更した場合は、課題レポート（70％）平常点（30％）		
テキスト	佐藤哲三・愛甲ゆかり 『大学生の英語入門〈改定新版〉（English Primer〈Revised Edition〉）』 南雲堂		

	2021年
参考書	英語の辞書は必携。英和辞典でも英英辞典でもよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合もある

講義科目名称： シニアイングリッシュD

授業コード： 231002 241001

英文科目名称： Senior English D

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
乙黒 晃 講師			
添付ファイル			

授業の概要	英語の文章を書くためのスキルを伸ばす。日本語と英語の文章構成の性質の違い、特徴を理解する。「パラグラフ・ライティング」の概念を理解し、英語的なパラグラフを表現するための練習をする。将来日本的な事象について英語で説明・発信する能力を養う。学習成果の指標はA-①とB-③である。遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修と③オンデマンド学修（「Google Classroom」を利用）を併用して実施する。		
授業計画	1 回目	The Process of Paragraph Writing 授業内容についての導入 英語のパラグラフの概念・構成を説明 PP. 26～33におけるパラグラフの書き方を説明 補助教材による演習	
	2 回目	Unit 5 Explaining Your Character 自分の性格、好きですか？ Task 5-1～5-7 補助教材による演習	
	3 回目	Unit 5 Explaining & Exercises Task 5-8～5-9、Focusing on Form 補助教材による演習	
	4 回目	Unit 8 Giving Advice and Instructions ネットショッピング詐欺に引っかからないために Task 8-1～8-7 補助教材による演習	
	5 回目	Unit 8 Explaining & Exercises Task 8-8～8-9、Focusing on Form 補助教材による演習	
	6 回目	Unit 5 & Unit 8 のまとめ 補助教材による演習	
	7 回目	Unit 9 Comparing and Contrasting 似て非なるもの：パブと居酒屋 Task 9-1～9-7 補助教材による演習	
	8 回目	Unit 9 Explaining & Exercises Task 9-8～9-9、Focusing on Form 補助教材による演習	
	9 回目	Unit 10 Explaining Japanese Culture 説明しよう、日本の文化 Task 10-1～10-6 補助教材による演習	
	10 回目	Unit 10 Explaining & Exercises Task 10-7～10-9、Focusing on Form 補助教材による演習	
	11 回目	Unit 9～Unit 10のまとめ 補助教材による演習	
	12 回目	Unit 11 Describing Data Expressed in Graphs データに見る世界の現状 補助教材による演習	
	13 回目	Unit 12 Summarizing What You Have Read AIによって職が奪われるのか Task 12-1～12-5 補助教材による演習	
	14 回目	Unit 12 Exercises Task 12-6～12-7、Focusing on Form 補助教材による演習	
	15 回目	まとめ 英語のParagraphの理解度を確認する	
到達目標	パラグラフの概念やその構成要素を理解し、英文や文章を作ることができる。単なる日本語を英語に置き換える作業的な和文英訳ではなく、伝えるべきテーマを理解し、それを英語という言語の特徴を理解した文章構成で書くためのスキルを身につける。自分自身に関係する題材や日本・世界に関する題材について自分の意見や考えを英語で表現し伝えることができる。		
授業時間外の学習	各UnitのTaskについて、わからない英単語や英語表現について最低限、英和辞書を使って調べておくこと。また、Taskの内容についてある程度理解しておくこと。 授業で課されたレポート等の課題に取り組むとき、和英辞書で調べた単語・語句が、実際の英文や文脈の中で使えるかどうかを必ず、英和辞書の文例で調べておくことを推奨する。		
評価方法	平常点（毎回の授業内容の理解度確認評価、レポートを含む）70% まとめ確認テストによる評価 30%		

	遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	静 哲人『Writing Facilitator - 構造から学べるパラグラフ・ライティング入門』〔改訂版〕（松柏社、2019年） 補助教材（プリント教材）
参考書	授業には英和辞典を必ず持参すること。高校のとき使用した英語表現の教科書や英文法参考書を利用してテキスト内容について理解を深めるのもよい。予習・復習・レポート作成等のために、インターネット上での無料オンライン辞書（Weblio辞書、英辞郎 on the Web、DMM英会話等）を利用するのも推奨。
備考	授業時は、授業内容を速記・記録できるノート等の学習用具を持参し使用することを推奨する。授業計画は一応の目安であり、学生の事情に応じて進度と内容に多少の変更がなされる場合がある。 当該授業を受講する学生は、必ず、Google-Classroomに登録すること。このClassroomを通して、授業活動の予告や課題指示、授業に関する資料等の配信をする。 提出課題等を作成・提出する場合は、手書きのものも認めるが、PC等で作成したものをプリントアウトしたもの、あるいは、その電子データをGoogle-Classroomによるメールで提出することが望ましい。

講義科目名称： シニア イングリッシュ E

授業コード： 225001

英文科目名称： Senior English E

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	さまざまなテーマの、350 words程度の英文を読む。英語の語彙や文法や構文を意識しながら、文章読解力の養成を図る。学生中心の授業を目指すので、学生はより積極的な姿勢が求められる。 なお、学習成果の指標はA-①とB-③とである。 遠隔授業が必要な場合には、同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	1 回目 Interesting Buildings の前半 2 回目 Interesting Buildings の後半 3 回目 Bollywood の前半 4 回目 Bollywood の後半 5 回目 The Nobel Prize の前半 6 回目 The Nobel Prize の後半 7 回目 前半のまとめと復習 8 回目 A Funny Cure の前半 9 回目 A Funny Cure の後半 1 0 回目 Palm Reading の前半 1 1 回目 Palm Reading の後半 1 2 回目 Amazing Memory の前半 1 3 回目 Amazing Memory の後半 1 4 回目 Incredible Dogs 1 5 回目 後半のまとめと復習
到達目標	四年生大学への編入試験や就職試験に対応できる英語の基礎力と読解力を身につける。 特に、基礎的な英文を読解する力を身につけることを目標とする。それは専門課程に進んだ後、英語の文献を読みこなして知識・情報を得るための基礎となる。
授業時間外の学習	まず授業を効果のあるものとするために必ず予習をすることが大切である。また語学の習得には毎日の継続的学習が肝心なので、授業の有無にかかわらず日々の学習を習慣化してもらいたい。英語の新聞雑誌や書籍に少しでも慣れ親しみ、そこから知識・情報を得ることをできるかぎり心がけてもらいたい。
評価方法	授業への参加度と課題の提出状況 20% 試験 80% 遠隔授業に移行した場合には、上記の評価配分を変えることがある。
テキスト	『Reading Advantage 2』（Cengage）
参考書	授業時に英語の辞書を必ず用意してもらいたい。必要な時にすぐに引けるようにすることが大切である。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合がある。

講義科目名称： シニア イングリッシュ F

授業コード： 245004

英文科目名称： Senior English F

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
戸叶行一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	準動詞（不定詞・動名詞・分詞）と完了形・受動態などとの関係を理解することによって、文の要素を明らかにし、英文の構造を把握する方法を学ぶ。 テキストの「解説」で基本的知識を整理し、「基本問題」「発展問題」「長文問題」を解くことによって要点を確認する。 なお、学習成果の指標はA-①と B-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で実施する。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 不定詞（Ⅰ）・動名詞（Ⅰ） 2 回目 受動態 3 回目 完了形 4 回目 接続詞（Ⅱ）時制の一致を含む 5 回目 5つの基本文型（Ⅰ） 6 回目 5つの基本文型（Ⅱ） 7 回目 各種疑問文 8 回目 前半のまとめ 9 回目 不定詞（Ⅱ） 10 回目 Itの特別用法 11 回目 分詞・動名詞（Ⅱ） 12 回目 関係代名詞 13 回目 仮定法（Ⅰ） 14 回目 仮定法（Ⅱ） 15 回目 後半のまとめ		
到達目標	名詞句・形容詞句・副詞句としての働きを持つ準動詞、形容詞の働きを持つ関係詞節などの基礎・基本となる文法項目を中心に理解を深め、英文の構造をきちんと理解できることを目標とする。つまり、単語レベルに留まらず、句や節の働きを理解することによって、英文の構造を明らかにし、英文の内容を速く、正確につかみ、さらに使えるようになることを目指す。		
授業時間外の学習	事前に、不明な英単語・熟語等の意味を調べることや、テキストの練習問題に解答しておくことが必要である。さらに、英文の音読や音読筆写を復習として行うと一層の進歩が期待できる。		
評価方法	小テスト（70％）平常点（30％） 遠隔授業に変更した場合は、課題レポート（70％）平常点（30％）		
テキスト	佐藤哲三・愛甲ゆかり 『大学生の英語入門〈改訂新版〉（English Primer〈Revised Edition〉）』 南雲堂		

	2021年
参考書	英語の辞書は必携。英和辞典でも英英辞典でもよい。
備考	授業計画は一応の目安なので、学生の実情に応じて、進度と内容を多少、変更する場合もある

講義科目名称： 中国語 I

授業コード： 143003 144003

英文科目名称： Chinese I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	中国語の基礎語法を学ぶ。外国語としての中国語を、日本語と比較しながら学ぶことにより、双方の特徴を明らかにしていく。 漢字を共有する日中の言語は、その用法に微妙な差が生じる。特に発音に大きな隔たりがあるので、発音の学習をしてから、基本文型に移っていく。言語を学ぶには、その国の歴史や文化に精通する必要がある。適宜、中国の歴史（近現代史）や文化（映画や歌など）にも触れていきたい。 学習成果の指標はA-①・③である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンスー中国語とはどんな言葉 2 回目 発音編（一字一音・声調・単母音） 3 回目 発音編（子音・複母音・鼻母音その他） 4 回目 発音編（発音総合練習） 5 回目 第1課 要点（人称代名詞・判断動詞「是」など） 6 回目 第1課 本文と読み物・練習問題 7 回目 第2課 ポイント（疑問詞疑問文・副詞「也」など） 8 回目 第2課 本文と読み物・練習問題 9 回目 中国近現代史Ⅰ 現代～中華人民共和国成立まで 10 回目 中国近現代史Ⅱ 日中戦争～アヘン戦争あたりまで 11 回目 中国映画鑑賞Ⅰ （「あの子を探して」など名作映画鑑賞 前半） 12 回目 中国映画鑑賞Ⅱ （「あの子を探して」など名作映画鑑賞 後半） 13 回目 第3課 要点（指示代名詞・形容詞述語文など） 14 回目 第3課 本文と読み物・練習問題 15 回目 まとめ
到達目標	中国語の発音をひと通り正しく発音できる。簡単なあいさつ語を覚える。中国の近現代史を理解できる。
授業時間外の学習	毎日教科書付属の音声再生アプリを聞いて発音に慣れる。習った単語やあいさつ語を繰り返し発音する。テレビやラジオ講座なども視聴する。
評価方法	定期試験100%で評価するが、遠隔授業になった場合はレポート100%
テキスト	王振宇・李小捷『中国語への旅立ちー基礎からの出発ー』朝日出版社
参考書	授業時に指示する。
備考	教育実習の実施期間により、シラバスの内容が変更されることがある。

講義科目名称： 中国語Ⅱ

授業コード： 243004 244004

英文科目名称： Chinese Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	引き続いて中国語の基礎語法を学びながら、さらに文章の読解を深める。外国語としての中国語を、日本語と比較しながら学ぶことにより、双方の特徴を明らかにしていく。 春セメスターで学んだ語法を、さらに進めていく。 学習成果の指標はA-①・③である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。		
授業計画	1 回目 春セメスターの復習 2 回目 第4課 要点（動詞「在」・連動文など） 3 回目 第4課 本文と読み物・練習問題 4 回目 第5課 要点（動詞「有」・時間名詞など） 5 回目 第5課 本文と読み物・練習問題 6 回目 第6課 要点（助動詞「会」・状態の変化「了」など） 7 回目 第6課 本文と読み物・練習問題 8 回目 第7課 要点（名量詞・助動詞「能」など） 9 回目 第7課 本文と読み物・練習問題 1 0 回目 第8課 要点（動作の完了「了」・経験を表す「過」など） 1 1 回目 第8課 本文と読み物・練習問題 1 2 回目 第9課 要点（比較表現・助動詞「要」など） 1 3 回目 第9課 本文と読み物・練習問題 1 4 回目 第10課 ポイント（前置詞「離」・時間量など） 1 5 回目 総復習		
到達目標	I で習得した発音を基本に、短い文章を正しく発音でき、読解できる。基本語法を習得し、簡単な中国語の文を作れる。 中国語の特徴を日本語と比較して考え、簡単な文章でまとめることができる。		
授業時間外の学習	引き続き音声再生アプリなどを利用し、声を出して発音練習を行う。新出単語の意味を理解し、正しい中国語（簡体字）で書けるようにしておく。授業で行った問題練習で誤ったところがあったら、どこを誤ったかを確認しておく。		
評価方法	定期試験100%で評価するが、遠隔授業になった場合はレポート100%		
テキスト	王振宇・李小捷『中国語への旅立ち—基礎からの出発—』朝日出版社		
参考書	授業時に指示する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
宮塚寿美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	韓国語を初めて勉強する人を対象に、ハングル文字・発音・文法の基本を学習します。一緒に韓国語に親しみながら勉強していきましょう。 実際に韓国語を使えるようになるために、授業では、ペア・グループワークなどを積極的に行います。また韓国事情、文化などについても触れながら授業を進めます。予習・復習とともに主体的に授業に臨んでください。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施する。 学習成果の指標はA-①とB-③とである。		
授業計画	1 回目	オリエンテーション・第1課 ハングルの構造、母音(1)：中声（単母音） なぜ韓国語を受講するのか？自己紹介など。 授業方針説明。 韓国語の文字であるハングルの構造について。ハングルの読み書きを習い始めます。	
	2 回目	第2課 子音(1)：初声（平音・鼻音・流音） 予習：教科書の第2課を読んでおく。 復習：ハングルの構造を理解し、初声（平音・鼻音・流音）の区別ができるようにする。 毎回授業で習ったことを方眼ノートに書く課題が出される。毎回、次の授業時に教員が確認する。 (以下、同様)	
	3 回目	第3課 母音(2)：中声（半母音・二重母音） 予習：教科書の第3課を読んでおく。 復習：ハングルの構造を理解し、母音の中声（半母音・二重母音）の区別ができるようにする。	
	4 回目	第4課 子音(2)：初声（激音・濃音） 予習：教科書の第4課を読んでおく。 復習：ハングルの構造を理解し、子音の初声（激音・濃音）の区別ができるようにする。	
	5 回目	第5課 子音(3)：終声・終声規則 予習：教科書の第5課を読んでおく。 復習：ハングルの構造を理解し、子音の初音の終声・終声規則ができるようにする。	
	6 回目	第6課 発音変化：終声の初声化・濃音化・hの弱化 予習：教科書の第6課を読んでおく。 復習：ハングルの構造を理解し、発音変化：終声の初声化・濃音化・hの弱化ができるようにする。	
	7 回目	第7課 まとめ：発音練習 第1～6課の復習をする。	
	8 回目	オンライン授業 ②同時・双方向型学修	
	9 回目	映画を通して韓国語を意識してみる。 第8課 こんにちは：挨拶表現 予習：教科書の第7課を読んでおく。 復習：日常生活でよく使う挨拶表現を覚える。	
	1 0 回目	第9課 第9はどちらのほうですか ①～は ②ここ、こちら[場所の代名詞類] ③～です(か)[指定詞のハムニダ体1] +α ～といいます	
	1 1 回目	第10課 旧正月は2月10日ではありません ①1、2、3[漢字語数詞] ②〇年〇月〇日[年月日] ③～ではありません(か)[指定詞のハムニダ体2] +α ～階、～年生、電話番号など	
	1 2 回目	オンライン授業 ②同時・双方向型学修 第8～10課の復習	
	1 3 回目	第11課 スキー場で会います ①～で ②～です/ます(1)[ハムニダ体]+α ～が、～と、～するつもりです[意志]	
	1 4 回目	第12課 一緒にプールに行きませんか ①～に ②～ません[2つの否定]+α ～られません[2つの不可能]	
	1 5 回目	まとめ確認テスト	

	第8～12課の確認テスト
到達目標	前期が終わるころまでには、自分の名前など基本的な初級レベルのハングルが読み書きできるようになる。
授業時間外の学習	授業で習ったことを復習。積極的に朝鮮半島に興味をもつ。 普段から、ニュースなどから韓国、北朝鮮に関する時事問題にも興味を持つ。
評価方法	平常点（授業への積極性、参加度、授業態度など）40%、提出物（宿題、レポート）20%、テスト40% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	宮塚寿美子『韓国朝鮮語初級テキスト マルの不時着(1)』レインボー出版、2024
参考書	野間秀樹著『新版 ハングルの誕生—人間にとって文字とはなにか—』（平凡社） 野間秀樹著『韓国語をいかに学ぶか』（平凡社） 油谷幸利他編『朝鮮語辞典』（小学館） 『まいにちハングル講座』、『ハングルッ!ナビ』（NHK出版） ※授業内で随時紹介する。
備考	1. 受講意思のある者は必ず初回の授業に出席すること。韓国語の基礎をしっかりと築くために、1回1回の授業が極めて重要である。そのため、原則として、欠席をしないこと。欠席した場合は、教員や同じ授業を受けている者に授業内容を確認する。 2. 毎回、小テストを随時実施する。毎回復習の課題に使用するノートは方眼ノートを用意する。 3. プリント資料も配布する。進度によって順番などが変更することもある。 4. 自宅での学習可能なパソコンやモバイル端末を利用したe-ラーニングの活用と韓流コンテンツを紹介する。 5. 教員との連絡方法を初回の授業で確認する。積極的な質問や感想を期待する。 6. 授業の進捗状況によって順番など変更もある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
宮塚寿美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	春セメスターの「韓国語Ⅰ」を履修していることが望ましい。 韓国語を学習する人を対象に初級韓国語でのコミュニケーション力（読む、聞く、書く、話す）の伸長を図っていきます。ハングル(文字)を習い、韓国語に慣れ親しみながら学習をしていきましょう。 実際に韓国語を使えるようになるために、授業では、ペア・グループワークなどを積極的に行います。また韓国事情、文化などについても触れながら授業を進めます。予習・復習とともに主体的に授業に臨んでください。 セメスター中に教科書を二つ使うことになります。 *授業予定は、進行状況などにより変更される場合があります。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学習（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。 学習成果の指標はA-①とB-③とである。		
授業計画	第1回目	オンライン授業 ②同時・双方向型学修	第1～12課の復習 オンラインのGoogle Meet を使用する。
	第2回目	第13課 スーパーでコーラを2つ買います 予習：教科書第13課を読んでおく。 ①～を ②1つ、2つ、3つ[固有数詞] ③～です/ます(2)[へヨ体] +α ～です[指定詞のへヨ体]	
	第3回目	第14課 朝6時30分から体操をしました 予習：教科書第14課を読んでおく。 ①〇時〇分[時間] ②～から～まで ③～しました[過去形] +α ～歳、～個、～回など	
	第4回目	第15課 駅の前に宮殿があるんですよ 予習：教科書第15課を読んでおく。 ①前後、左右[位置名詞] ②助詞のまとめ +α ～でした[指定詞の過去形]	
	第5回目	ちょっと一休み♪ ハングルタイピング 白頭からハルラへ 情報処理室（パソコンルーム）で授業を行う。 予習：反切表（ハングルの子音字と母音字を組み合わせた表）を確認しておく。 復習：授業中に提出した自己紹介文に対するフィードバックをよく確認する。また、今学期学習した内容（単語・表現・文法）を使って、自分のことや身の回りのことについて何が表現できるか改めて考えてみる。もし、既習の範囲でよくわからない部分がある場合は、教員のオフィスアワーに事前予約のうえ、相談に来る（もし時間的に難しい場合は、メールでの相談も受け付ける）。	
	第6回目	第16課 歌が上手じゃないですか。一緒に歌いましょうか。 予習：教科書第16課を読んでおく。 ①「～を」の用法 ②～じゃないですか[確認] ③～ましょうか[意向] +α ～でしょう？[確認]	
	第7回	第13～16課の復習 ちょっと一休み♪ 口笛 予習：第13～16課の課復習	
	第8回	中間テスト 復習：第13～16課の課復習	
	第9回	オンライン授業 ②同時・双方向型学修 映画鑑賞 映画を通して韓国語の理解を深める。	
	第10回	第17課 ハナ院で韓国語を勉強されているんですよ ①～(ら)れる[尊敬形] ②～ています[進行・習慣] ③～んですよ[根拠] +α 召し上がる、いらっしゃる、おっしゃる[特別な尊敬]	
	第11回	第18課 ソウルは平壤より車も多いし、街も明るいですねえ ①～より[比較表現]	

	②～て、～し[並列] ③～ですねえ[詠嘆] +α ～の中でいちばん…[最上級] 第12回 第19課 ソウルで車を運転してみたいんですが… ①～てみる[試み] ②～たい[希望] ③～んですが[婉曲] 第13回 第20課 私たち、統一したら、家族に会いに行きましょう ①～たら[仮定・条件] ②～しに行く/来る[目的・移動] ③～ましょう[勧誘] +α ～ので、～て[理由・先行] 第14回 第17～20課の復習 ちょっと一休み♪ あなたがいなければ祖国はない 予習：第17～20課の復習 第15回 期末確認テスト・総括 予習：第17～20課
到達目標	韓国語の基礎（文字・発音・単語・表現・文法）を習得する。授業時間はとりわけ口頭練習を重視し、「読み」、「書き」の能力も学習段階において適切に身につけていく。今学期は基本的な単語や文法の学習が中心となるが、限られた学習内容の中でも自己や身の回りのことについて、いかに豊かな表現ができるかを考え、実践できるようになる。 なお、この授業では日本語と韓国語を対照言語学的な視座から捉え、日本語話者にとって効率的な学びを提供する。そのため、普段から日本語と韓国語の異同について考え、それを楽しむ習慣を身につけることも目指したい。以上のようなプロセスを経て、自立した韓国語学習者としての視座を涵養したい。
授業時間外の学習	日本の日常生活の中で見られるハングル(文字)を見つけてみる。 授業で習ったことを復習する。積極的に韓国、北朝鮮の文化、社会、歴史などに興味をもつ。 普段から、ニュースなどから韓国、北朝鮮に関する時事問題にも興味をもつ。
評価方法	平常点（授業への積極性、参加度、授業態度など）40%、提出物（宿題、レポート）20%、テスト40% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	宮塚寿美子『韓国朝鮮語初級テキスト マルの不時着(1)』レインボー出版、2024年
参考書	野間秀樹著『新版 ハングルの誕生—人間にとって文字とはなにか—』（平凡社） 野間秀樹著『韓国語をいかに学ぶか』（平凡社） 油谷幸利他編『朝鮮語辞典』（小学館） 『まいにちハングル講座』、『ハングルッ!ナビ』（NHK出版） ※授業内で随時紹介する。
備考	1. 受講意思のある者は必ず初回の授業に出席すること。韓国語の基礎をしっかりと築くために、1回1回の授業が極めて重要である。そのため、原則として、欠席をしないこと。欠席した場合は、教員や同じ授業を受けている者に授業内容を確認する。 2. 毎回、小テストを随時実施する。毎回復習の課題に使用するノートは方眼ノートを用意する。 3. プリント資料も配布する。進度によって順番などが変更することもある。 4. 自宅での学習可能なパソコンやモバイル端末を利用したeラーニングの活用と韓流コンテンツを紹介する。 5. 教員との連絡方法を初回の授業で確認する。積極的な質問や感想を期待する。 6. 課題提出用にマス目のある方眼ノートを用意する。 7. 進捗状況によっては順番や内容などに変更がある。